

The Kansai University Bulletin

Osaka, June 15th, 1926 - No. 41

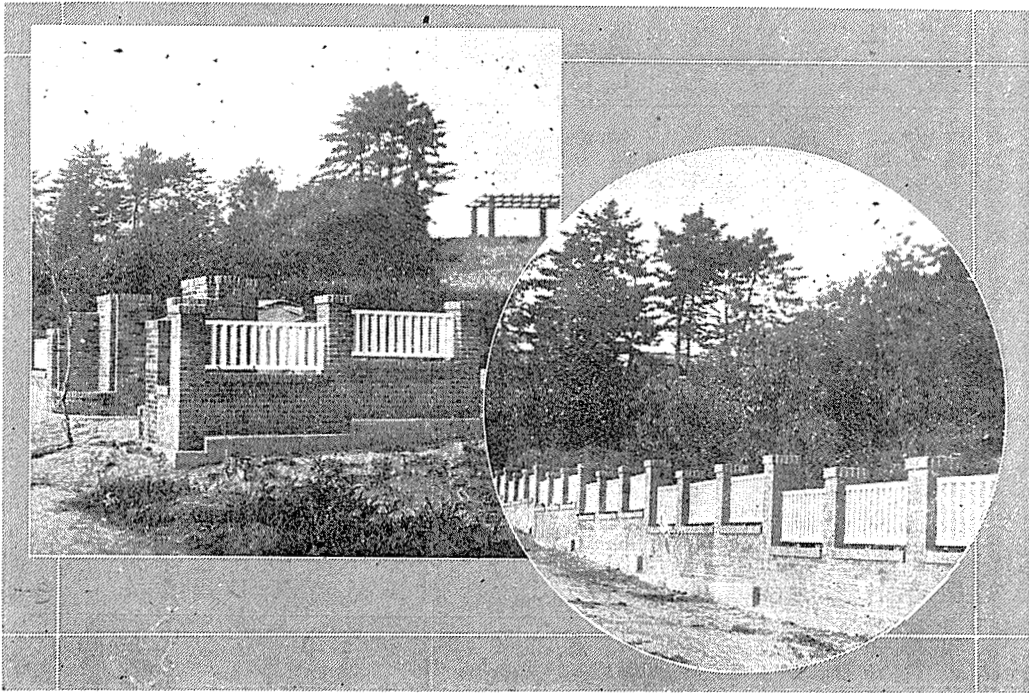
報學山里千

行發日五十月七

號一十四第

年五十正大

The Main Entrance to the University Stadium



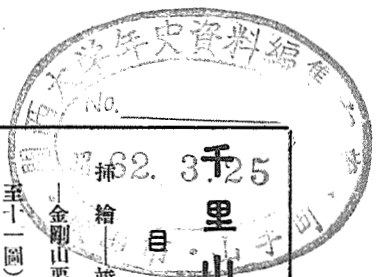
門正場動運舍學山里千るせ成竣

阪 大

堀佐土話電
番〇七五五・九四〇一

局報學學大西關

座口金貯替振
番五七八二一阪大



千里山學報 第四十一號

目次

- 繪 坡成せる千里山學舎運動場正門(表紙)
- 金剛山要塞に関する新考察参考圖(自第一圖至十一圖) 駐日英國大使閣下とその書信(山崎有信氏) 第二商業學校辯論部主催「關西中等學校學生雄辯大會」記念撮影—英語會その一—英語會その二—法政大學對本學對抗陸上競技大會記念撮影—高松高商對本學—島庭球部試合記念撮影—東北、北海道郷友會記念撮影
- 金剛山要塞に関する新考察 關西大學教員 陸軍歩兵大佐 横卷茂雄
- 近世奴隸制度(續) ジェー・ケー・イングラム
- 學内報—第一學期試驗施行—第一學期授業終了—千里山學舎門欄竣成—第四回夏期語學講習會開催—經濟學部學生の手形交換所見學—佐竹評議員の鐵道省政務次官就任—附屬第二商業學校
- 梁報—本學夏期學外講演 校友の面影—山崎有信氏
- 校友彙報
- 學生彙報
- 初めてチヨークを執りて(續) 今山生
- 千里山俳壇
- 千里山歌壇
- 關西甲種商業學校彙報
- 雜錄

金剛山要塞に関する新考察

關西大學教員 陸軍歩兵大佐 横卷茂雄

緒言

我々は楠公の郷土を同する事に就て多大の誇を感じる。楠公の業績を研究すれば、する程益々其偉大にして崇高なる人格に打たれざるを得ぬ。私は茲に自己の専門的立場から觀察した金剛山要塞に関する一小考察を通じて此偉大なる將帥の片鱗を描かうと思ふ。

敢て金剛山要塞を云ふ。區區たる千早城や赤坂城の問題ではない。實に金剛山嶽全般に蟠踞連亘した數線數重の支撐點式山地大要塞を云ふのである。金剛山要塞に就ては既に大熊權平氏や大類博士や又私の先輩赤井少將等に依つて一般に紹介された所であるが、私は是等先輩各位の高説を敷衍して一層具體的に論及せんとするものである。

要塞の任務及編成法

研究の前提として蛇足乍ら要塞に関する學說を略述する。

要塞は其任務に依つて

- 一、野戰軍の行動の樞軸となり支撐點となるもの
- 二、政略上又は戰略上重要な地點を掩護するもの
- 三、敵の前進を阻止するもの

等に分類せられる。此點から金剛山要塞の任務を考察して見るに、政略上極めて重要な近畿平野に策動すべき野戰軍の爲、其樞軸其

機軸を形成するに他ならぬ即ち前陳第一項に該當する。

要塞は專守防禦を完成する爲第一圖に示す如く三段の配備を取るを原則とする。此原則は野戰に於ける陣地戰にも適用せられる(第二圖)而して新式の要塞に於ては此各線上に若干の距離を開いて支撐點となるべき堡壘を配置し、堡壘間の間隙には大なる築城工事をしないのを普通とする。(第一圖甲)然るに舊時代の築城は一般に各線共全部圍壁を連亘して取巻く式を取つて居る(第一圖乙)。従つて舊時の築城地域は近時に比し著しく狭少である。例へば第三圖第四圖の如き是である。かくの如き古代の築城を集團式と稱すれば、近世式築城は疎開式と云ひ得る。

金剛山要塞築設の年代は西歐に於ては騎士の盛んな十四世紀の初頭、百年戰爭の初期であり、支那では元の末期に當る、従つて其の築城は何れも皆集團式である(第三第四圖)に拘らず我々楠公の夫のみは全然六百年を飛び越して最新式の疎開式を探つて居る事は私の愉快を禁じ得ない所である。

かゝる卓抜なる築城様式を楠公は果して那邊から學んだものであらうか。楠公は少時大江匡房七世の孫大江脩理亮時親に兵學を學んだと傳へられるが、此時親にしても僻陬の村夫子大なる造詣の有る筈は無い。又楠公自身は義舉以前に於ても數回土寇を討伐した經驗を持つて居り、加之曠古の國難元寇の亂に就て親しく歴戰の士に就き、或は彼の時親を通じて十分研究した事は思ふ。が、最初に於ける下赤坂城の經始丈では源平時代乃至は同時代の歐洲の者以外特に新機軸の跡を見出し

得ぬ。私は此下赤坂城に於ける第一回戰五十餘日の苦き經驗は公の戰術眼を開き茲に金剛山要塞なる獨特の疎開式經始を創案せしめたものと思ふのである。然るに形式を尙ふ凡俗の徒は倫敦塔や萬里の長城の如き巍巍たる輪奐を賞賛して、深く天然の性情を研究し、能く之に順應し得た此自然的築城の眞價を發見し得ないのである。

要塞編成前の情況

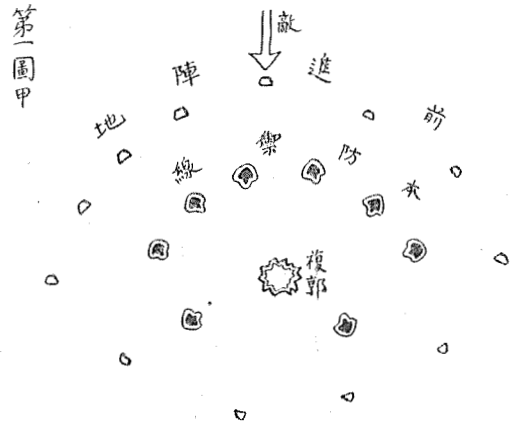
元弘元年九月楠公は、主上の笠置潛幸に響應する爲咄嗟の間に下赤坂城を築き之に據つて勤王の第一聲を擧げた此戰鬪に於ては事情かくの如きを以て周到なる準備をなす餘裕もなく公としては左して自信ある戰では無かつたと思ふ。そこで笠置落ち、主上隱岐に行幸せられるや十月二十一日夜全隊を解散して一先づ其踪跡を隱晦したのである。此離伏には重大なる意義がある。即ち楠公は此間第一次に於ける失敗の原因を基礎として徹底的に要塞編成の研究を遂げ、又、大塔宮を始め四方の有志を來往商議し確乎たる自信を以て徐ろに成功の日を俟つたものと察せられる。

要塞の構築

鳴かず基ばさる事約一年、元弘二年六月突如として大和十津川の土豪竹原八郎は志摩の一角に義旗を擧げて伊勢平地に進出した。前年の兵變漸く治り暫し少康を樂しめる兩六波羅は俄然其驚きの眼を伊勢に向くる暇もあらず續て大塔宮が吉野に據つて天下に令旨を發せられる事を耳にした。此二つの行動は兵語に謂ふ所の牽制である。重複した此等の牽制、十分に成功して六波羅は我々楠公が之と同

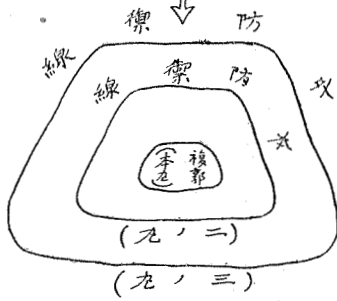
時に堂堂たる大要塞を金剛の空翠裡に築設しつゝある事を容易に偵知し得なかつたのであ

新式要塞編成圖



第一圖甲

歐州世紀及我戰時時代築城



第一圖乙

る。六波羅の之を聞知して紀伊方面の武士に討伐を命じたのは既に十二月であつたから要塞構築以來早や半年を経過して居る。而もか

かる小勢の如きは飛んで火に入る夏虫の結果に了り其後愈々敵が眞面目の攻撃に従事したのは翌年二月中旬である。之を以て見れば本要塞の設計には一年を費し構築には少くとも八ヶ月の餘裕があつたのである。従つて當時の工事としては殆んゞ完全を期し得た事と思ふ。

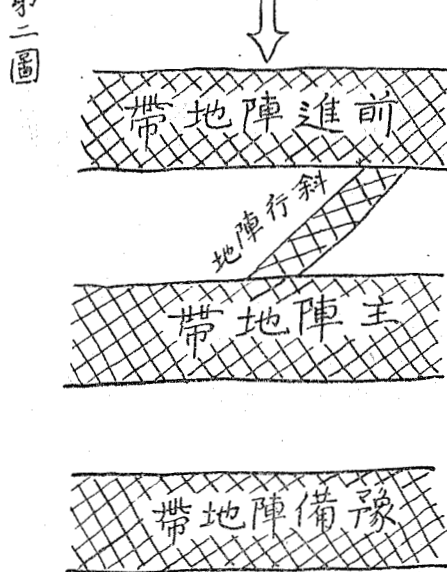
要塞の編成

かくして出来た要塞の概略は私の推斷に依れば實に第七圖の如くであつたと思ふ。勿論此中には單に想像に過ぎないものも多々あるが、少くとも私は最近調製された綿密なる地圖を補助とし、親しく現地を踏査して得たる地形上の視察に依つて推斷したのであるから中らすも遠からざる事を自信する、尙切に各位の御叱正を得て其真相を明にしたいと思ふ次第である。試に此圖を執つて第六圖に於ける旅順要塞の配置圖と對比すれば其廣裔其配置其形狀に至る迄如何に酷似して居るか寧ろ不思議な程である事を感じるであらう。即ち本防禦線の延長共に約四里、本防禦線と複郭との距離共に約一里に達する。若夫れ旅順の背面は海に托して安全だと思すれば金剛山の背面は紀の川河孟と高野山に托して或程度の保障を得て居る。更に再び之を同時代の外國に於ける築城たる第三圖等を顧みれば其差實に霄壤の感があるであらう。

尙此要塞に就て特に興味を感じるのは歐洲大戰に始めて現出した如き斜行陣地線を有する事である。之は旅順要塞には未だ認め得ざる所である。抑も斜交配備は單に專守的防禦ならば不要であるが苟くも機會之を許せば攻勢を取らんとする場合には極めて有効に働く

開始である。之が一層極端なのは今次歐洲大戰で獨軍の試みた蹂躪的陣地編成である。而も之も亦金剛山要塞に具備して居る。一例を擧ぐれば最初に紀州路より攻め入つた湯淺定佛の一隊は何の故障もなく天見の谿谷内に潛入し得たので將宰相顧みて其成功を祝した利那俄然として兩側高地から伏兵が現はれ、驚いて退かんと思すれば既に背後の高地にも他の伏兵起り全然退路を遮斷されて如何にも致し方なく遂に定佛以下盡く降参して了つた。(第

歐州大戰に於ける陣地編成圖



第二圖

七圖参照)之即ち好餌を以て野獸を蹂躪内に誘致するに等しく正に今次大戰に獨軍の好んで執つた手段と暗合して居る。更に之と同様の原則に基いて今次大戰に縦の障礙物なるものが現出した。由來障礙物は敵の超越を阻止するものであるから防禦線と平行に配置するのを原則とする。然るに座して敵を待つ事なく進んで逆襲を敵に與へんとする場合には彼我の中間に横はる此障礙物は却て我の邪魔物となる。そこで今次大戰には防禦線に直交す

る障礙物所謂縦の障礙物が現出した。(第八圖参照)然るに金剛山要塞地の各堡壘にも亦此縦式障礙物を入れた痕跡がある。但し金剛山に於ては之は必しも明白に指摘し得ないが私は嘗て徳島縣三好郡井内谷に於ける八石城で始めて之を確認し得たものである(第九圖参照)。此八石要塞は脇谷義治の編成したものと推し得るので其形式は全然金剛山要塞に類し稍夫を縮少したに過ぎぬ(第七及第九圖参照)菊池氏の筑後川河孟に於ける十八外城は

私の實見しない所であるが大類博士の説に依れば矢張之に類するものと思ふ。而して此兩氏は楠公の崇拜者であり其友軍であり後繼者である點から考へて私は縦式障礙物の創造者も亦楠公であるを考へ。今一つ偽裝即ち Cannon 砲。も亦楠公に於て盛に用ゐられて居る其例としては千早城又は金剛山頂に對し直接奇襲を試みた際突然山頂から大木大石落下し先頭指揮官等を粉砕した云ふ事實に依つても又前陳の蹂躪的陣地の例に依つても皆よくカモフラージュされて居て攻者が至近の距離に來る迄此陣地を偵知し得なかつた證左である、又偽裝の一種なる偽兵に就ては、楠公の薬人形、最も人口に膾炙されて居る。但し此薬人形は事實でない云ふ歴史家もあるが私は實際偽兵を屢々使用した自己の經驗上、金剛山の如き地形では極めて有利に使用し得る事を確信するのみならず、楠公の部下は此要塞地域の廣大なるに比し極めて少數であつ

方面より攻撃
紀伊方面軍 司令官 名越朝宜 紀伊伊豫
阿波等

十一ヶ國の兵 和泉紀伊を経て紀伊見峠
方面より攻撃

第四圖(十三世紀に於ける佛國城塞)
スタヂア城



總計二十六ヶ國 約五萬人

以上の部隊は楠公麾下の如き臨時徵募の者ならず皆北條恩顧の武士が夫夫自己の家の子郎黨を率ゐて雲集したのであるから素質の點に於て攻圍兵の守兵に比して著しく優れて居つ

た事は注目に値する。

第一時期

前進陣地の陥落

元弘三年二月初旬東軍は夫夫京を發して三方面より金剛山に向つた。

1、河内方面の戦況

大手口攻撃軍即ち阿蘇軍は二月中旬より逐次前哨陣地及前進陣地の敵を驅逐したる後二月二十二日に至り遂に本陣地に逼迫した。之を旅順攻圍戰の經過に對比するに我乃木軍は明治三十七年八月上旬攻圍陣地を占領して以來逐次、大孤山小孤山干大山等の前進陣地を攻略し八月下旬に至り愈々盤龍山松樹山等の本陣地に對し總攻撃を開始したのである。即ち旅順攻圍の經過に此攻城の經過は殆んど同じ日子を費して居る數年に互り最新兵學を基礎として築造した要塞に殆んど同一の程度に攻撃を遲滞せしめ得たのは楠公の築城に於ける卓抜を裏書するもの云はねはならぬ。

2、大和方面の戦況

大和方面軍即ち大佛軍は大塔宮支隊の脅威を免れる爲、別に二階堂道蘊の率ゆる一支隊を吉野方面に派遣したが前進遅々として漸く二月二十七日大和の御所を経て高天に達し茲で直接金剛山頂に對し奇襲を試みた。併し此所は非常な急峻地で嶺頂に攻撃發起點の標高差實に八百米もある上前述の様に不意に絶頂から大石の投下を被り攻撃全く頓挫した。之に懲りて爾後大和方面軍は再び金剛山に襲來するの舉に出でなかつた。又以て金剛峰が本要塞背面の屏障として如何に適當なるかを察すべきである。

3 紀伊方面の戦況

紀伊方面軍の行動は一層遅々として容易に進まない。是れ同軍の通過すべき地點には楠氏と同流の橘黨即ち岸和田氏淡輪氏高木氏八木氏等が占據して居るの爲、殊に紀の川河孟は前述の如く楠氏に好意的中立を持つ高野山の大家が控へて居るからである。私の考では楠氏の家族杯は初の間は觀心寺に後には高野山に居つたものと思ふ。従つて此要塞は全包围を受けたのでなく東南及南方は或程度迄敵の監視から解放せられて居り、最後迄紀ノ川河孟に補給路を保持して居つた事と思ふ。

事餘談に

屬するが紀ノ川河孟全く足利の勢力範圍に歸し、高野山も熊野も亦昔日の好意を失つた際に於ける小楠公の立場は極めて同情に値する此要塞の強味は背後に山又山の紀伊連山を負ふ點にあるに拘らず夫が一朝安全の保障を缺いた時、四條嶺に突進する云ふのは強ち暴虎馮河の策でないと思は考へる。

第二時期本防禦線の陥落

二月二十二日より開始された本防禦線に對

元弘三年一役一般圖

第五圖



する強襲は數段の梯隊を以て極めて猛烈に敢行された。本間、人見杯の戦死は實に此時である。東軍は之が爲二千に近い死傷者を出したのであるが尙屈せず盛に攻撃を續行し、遂に約十日の後閏二月一日(此年は閏年で二月三月の間に閏二月がある)、楠正季等は此線を撤退し、楠木本城を守備した平野將監以下三十數名は遂に開城降伏した。

此本防禦

線の陥落は意外に早かつた。之を旅順の本防禦線が明治三十七年八月下旬以來數回の強襲に堪へ翌年一月に至り始めて其一角を突破されたに比して餘りに飽つけない様である。然

し之には大に理由がある。第一に最重要なる楠木本城の守將が死守の意氣を缺いた事、第二に二月二十七日曩に金剛山を直接奇襲した大和方面軍の其主力を以て水越峠から進入して阿蘇軍の左翼に連り攻撃に従事し、其一部を以て金剛峯を大迂回して千早峠から千早城を奇襲した事である(第七圖参照)。勿論此奇襲部隊は千早峠で例のカムフラージュ陣地に

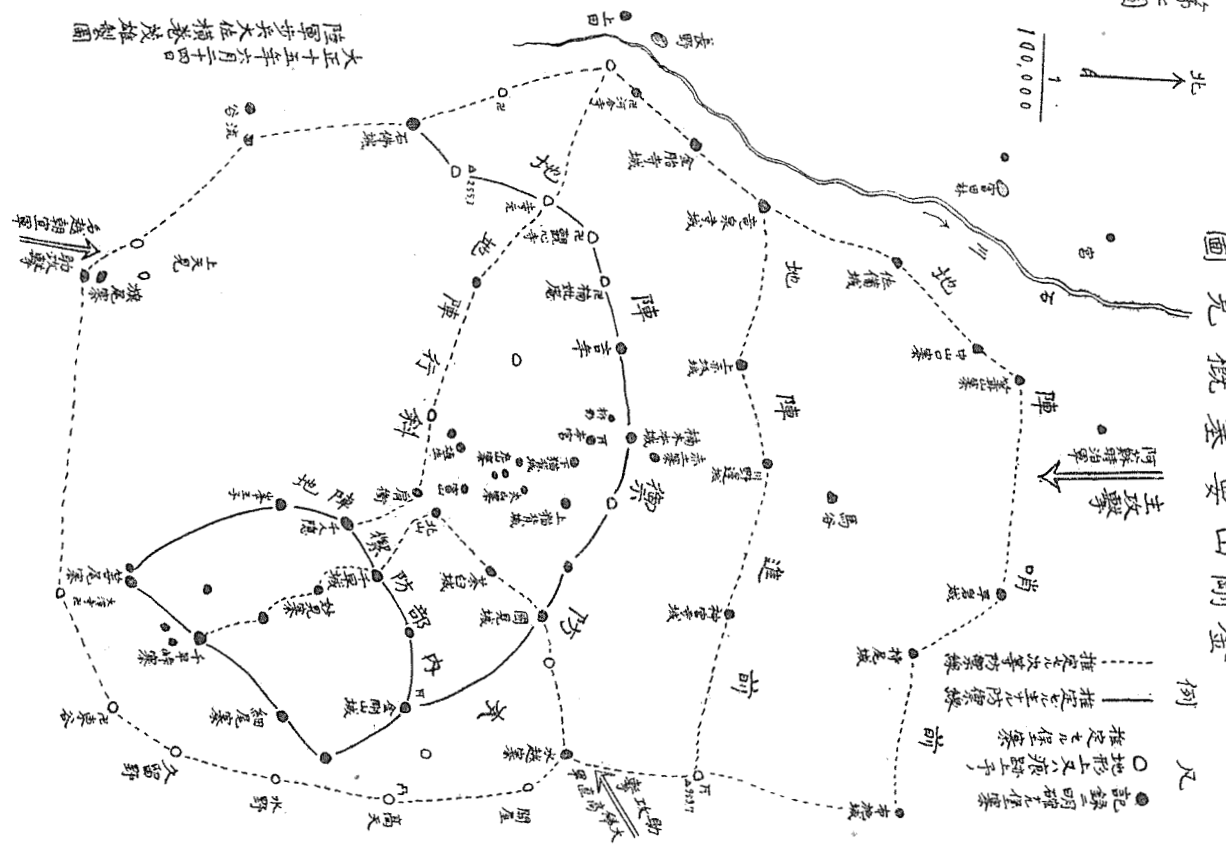
圖般一備配禦防塞要順旅

第六圖

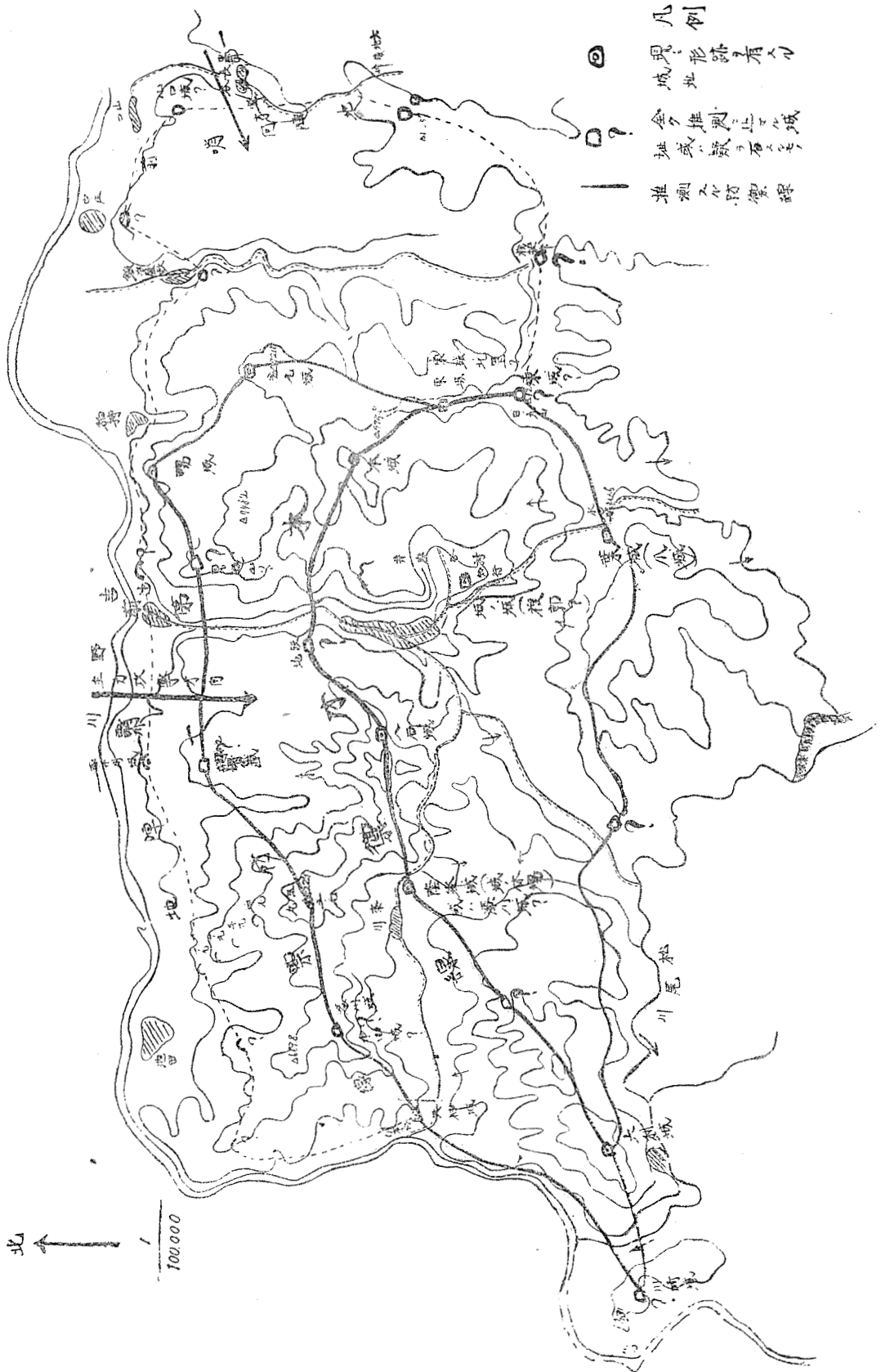


圖見概塞要山剛金

第七圖



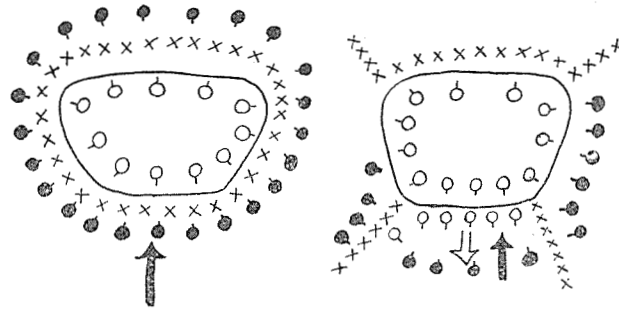
圖見概靈要石八代時朝北南



第九圖

引かかつて惨敗を來したが、之が楠公の總豫備隊を心理的に牽制して本防禦線に對する赴援を制肘した事少くなかつたと思ふ。今一つ此大和方面軍の二階堂支隊は此頃吉野で大捷を得、恰も閏二月一日即ち平野將監降伏の日には村上義光父子の忠死に依つて大塔宮は辛

障物ノ方向ト逆襲トノ關係比較圖

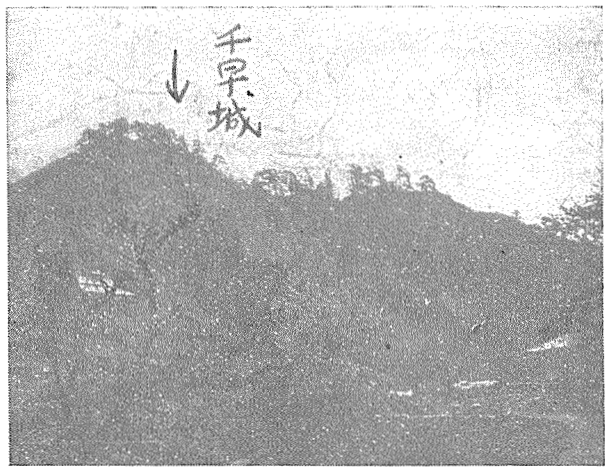


凡 守者
○ 攻者
↓ 逆襲方向
↓ 攻撃方向
xxx 障物

第八圖

くも高野方面に退却されたのである。要するに此戰爭に於ける大和方面軍即ち大佛軍の機動は可なり有効であつた。然し之等は寧ろ些事に屬し未だ第三の理由の重大なるに如かない。即ち第三の理由としては地形に兵力が

第十圖(千早城)最後まで固守せし腹郭(大手口より撮影)

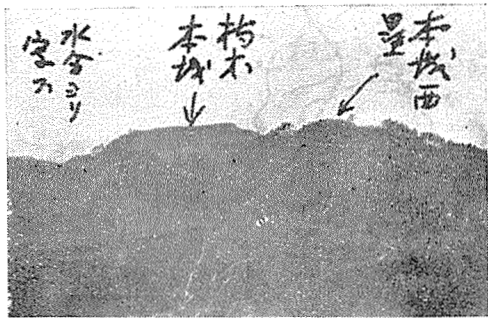


相應せぬ點である。「陣地は猶衣服の如し」陣地は兵力に比し適當の大きさを要するに拘らず此本防禦線は楠公の兵力に比して餘りに大である。是れ其早く破綻を來した最大の原因である。併し政略戰略上の理由から始めより此線を放棄するのは斷じて適當ではない。何となれば之より後方では河内平野を睥睨監視すべき其本然の任務を十分に達成し得ぬからである。楠公は十分此必要と缺陷との相反する條件を自認して居つたから、第二の本防禦線を千早城の線に選定し、而も成し得る限り前方の高地線を保持しようとしたのである。此事は千早城を實視した人には能く了解される。或學生は千早城に於て私に「周圍の高地から瞰制せられるこんな低い所へさうして城を設けたか」と質問した。之は尤もである

千早は始めから本防禦線ではない。第二の本防禦線であり、最後の複郭である。腹切場所である。従つて低くても差支はない。固守し得ればよいのである。之れなら兵力に匹敵する。丁度よい行丈の着物である。旅順は之に反し本防禦線が其兵力に適して居る。故に、永く持ち得た。其代り之が陥落すれば萬事休するのである現に本防禦線の一角二〇三高地が我有に歸し我軍の此所から旅順の軍港を瞰制するや露軍は忽ち降伏してつた。故に旅順では本防禦線を死守したに反し金剛山に於ては本防禦線は必しも頑守せず。弟正季も後方に退却し楠公自身も決して救援の策を取らなかつたのである。

第三時期 内部防禦線の 攻守及解圍

本防禦線の攻陥を見るや楠公は直に北山肩衝兩山の狹隘を兼て用意の材料で閉塞し、千早川を開き



第十一圖(楠本城)一に桐山城と云ふ。本防禦線中第一の堅壁

止めて千早城の前面及左側面に大氾濫を作り以て死守の意志を明にした。敵は潮の如く此線に殺倒し來つたが周到綿密に畫策し適切確實に區處せられた此内

部防禦線には微動だも與へる事が出来ない。然るに此頃に至り赤松圓心は播磨に起つて直路京師を衝かんとし、續て四國には土居能龍九州には菊地原田杯皆勤王の師を起した。而して是れ皆楠公が千早城の帷幄に決した籌略に出づる豫定の行動である。即ち要塞其者は受動的であるが此要塞の日本全國に投げた波紋は着着能動的であつた。要塞の戦例も少くないが、かくアクチーブに働いたものは古往今來を通じて殆んご無いと云ひ得る。前に堅壘を控え、後に不安の情報を耳にし策の出づる所を知らない攻圍軍は強襲を廢して長圍の計に出て、江口神崎邊から遊軍杯を招んで士氣の衰頹を防ぐに努めた。此際東軍の爲に謀るに、既に占領し得た本防禦線上に堅固なる對城を築きて之に要塞監視に要する最少限の兵力を駐め其他の主力を提けて先づ焦眉の急たる赤松勢の削減に努めるを可とする。事茲に出でざる爲、禍亂の波及を刻刻に擴大し遂に集收し得ざるに至らしめた。然し之は理論であつて楠公程の名將が到底敵をして此策に出でしめなかつたであらう。現に屢々夜襲を行ひ又奇計を施して攻圍軍に多大の損害を與へ、絶えず其心膽を寒からしめたので敵は終始不安に駆られ絶對に兵力の節約杯を考へる餘裕は無かつた事と思ふ。此點は旅順の「ステツセル」將軍杯は是に趣を異にする彼ステツセル以下誠能く防守したが半歳の攻圍間一回だも大規模の出撃を敢てしなかつた。之れ一面より考ふればスラブ民族の特性ではあるが、我攻圍軍の作業は御蔭で何等不安に駆られる事は無かつた。即ち苦戦は苦戦であつたが、常に一步一步攻圍線を縮少し得るこ

云ふ自信を我軍に持たしめた。雷に旅順のみならず日露戦争中我兵卒は苦戦の剝削に雖尙上官に對し敵は未だ退却しませぬと報告するを常とした即ち彼等は敵なるものは、何時かは退却すべきものであり、我軍は何時かは前進すべきものであると堅く信じて居たのである。之れ即ち我攻撃精神である。従つて此等の兵卒は要塞の我兵になつても機會だにあれば常に突出せん事を望んで居るのである。部下に此攻撃精神があつたればこそ楠公は從來の因襲を脱して各堡の中間を開放する疎開式を創始し得たのである。之と共に攻撃精神旺盛ならざる國に於ては常に萬里の長城の如き一連不斷の圍廓を最前線に設定する事は認しなればならぬ。かくして閏二月廿二日 主上隱岐を脱せられ大塔宮も亦再び紀伊の山谷から出て大和平野に突進され、各方面から京都を合撃するに至つた。是等の野戰軍は一勝一敗、六波羅勢から急追せられた時は退却し、然らざる時は又盛り返す云ふ風にピストン式の行動をして居つたが其間金剛山要塞は依然として何等破綻を來さない。即ち是等のピストンは皆金剛山を樞軸とし之に依つて始めて其劣勢を補ひ得た譯である。三月も過ぎ四月に至り攻圍軍は坑道を堀つて正攻法迄開始したが、之れ又何等の影響を要塞に與へ得なかつた。四月下旬足利尊氏の俄然踵を返して六波羅を攻撃するに及び五月七日遂に兩六波羅陥落し翌八日金剛山攻圍軍は全く四散して了つた。即ち金剛山要塞は守城六個月の後遂に其任務を完全に達成したのである。

戦例の回顧

元來守城戦は極めて困難であつて能く守りを全うしたものは古今を通じて極めて稀である即ちブレナンのオスマンバシヤは五ヶ月で開城し唯陽城の張巡許遠も最後には捕はれて居る、昔の漢學者中張巡を楠公に比するが如きものがあるが以ての外である。日清、日露役の旅順は勿論、千八百七十年戦ではベルフォールを除く外、メツツは六十九日、ストラスブルは四十九日、巴里は百三十二日で開城して居る。今次大戦では白耳義のリエージュ、ナミュールの如き有名なる築城家ブリヤルモン中将が難攻不落と稱したものであるが僅に數日で陥落した。我國に於ては他國と異なり多少立派な戦例もあるが金剛山要塞程大規模で全般の戦局に大關係を有するものの成功した例はない。又以て楠公の業績が如何に偉大なるかを察知すべきである。

將帥としての楠公

楠公が兵學家として古今東西を通じて極めて卓拔せる事は今迄の記述で一通り其輪廓を描き得たと思ふ。次に將帥として如何に模範的であるかに關し一言を附加して此記事を了らんとする。

楠公は元來田舎の土豪に過ぎず、其部下も亦多くは新附未熟の雜輩なるに拘らず之を糾合して克く天下の大事に當り數次の戦役間僅に平野以下三十餘名の背反者を出した以外終始一貫、父子三代を通じて部下を心服せしめたのは稀稀なる統率者云はねばならぬ。其他楠公戦死の報を聞いたものは敵も味方も押しなべて之を痛惜せるが如き、北朝の記録たる梅松論すら賞賛の聲を惜まざる如き、計へ來れば大楠公は將帥として有ゆる武徳を持つて居る。而して此諸徳の基礎を爲すものは何であらうか。私は此間に對し躊躇なく至誠であるに答へる。至誠純情、之が楠公の生涯を一貫し、之が楠公の人格を完成したのである。此實證を記述するには他に其人あると思ふから、私は單に一二の例を提示するに止めらる。

楠公の至誠を最鮮明ならしめたのは湊川の役である。此時、公は退て金剛山要塞を守らん事を主張した。此主張の適切なる事は本要塞に關する私の卑見を以てしても略々明白であらう。然るに策容れられざるや欽然として軍令に服従し、最善を竭して斃れ斃れて後も尙七生報國を誓つた。かくの如き偉大なる服従は至誠至忠の人に非ざれば到底實行し得ない所である。

以上は軍人としての至誠である。今一つ私は一個人として、人間としての楠公の純情を述べたい。

夫は建武の大業成つた後、尙王事の爲東奔西走席暖る暇なき間を割いて金剛山要塞下に戦死せし者の冥福を祈る爲、敵味方の差別なく厚く之を葬り一大供養會を脩した事である。現に、其供養塔は赤坂に存して居る。如何にも人間味に満ちた至誠の發露である。

私は嘗て支那人が怨敵の耳朶をナイフで切つてムシヤムシヤ啖つたの實見し漢籍にある肉を啖はずんば止まず云ふ事の誇張でないのを知つた。又臺灣に於て生首を濫過して酒を呑むを實見し、敵將の頭蓋骨を盃にして祝酒を擧げるの事實なる事を感じた。

最近佛國ヴェルダンの新戦場を訪ふて、有名なる銃劍塹壕を見た。獨佛兩兵が塹壕内で劍尖相摩し將に格闘せんとする一剎那、背後

より飛來した一發の大砲彈は一視同仁に此兩者を生埋にしたのである。夫が其儘保存されて居るから、彼等の劍尖丈は秋野の薄の様に地上に出て永久に交錯されたまま身體は土中に埋つて居る。此尊敬すべき戦蹟を永遠に記念する爲、歐洲に出征した合衆國兵の手で御堂が出来て居る。私は此地下の勇士には無限の尊敬を拂ふたが、其御堂の正面に大書された文字を見た時急に不愉快になつた。夫は左の通りである。

A la memoire des soldats Francais
qui dorment debout le fusil
en main dans cette tranchée
Leur freres d'Amerique

佛蘭西兵卒の紀念の爲に

彼等は此塹壕内に銃を手にしつゝ、永久に眠る

彼等の亞米利加の兄弟

私と同行した白人共は之を讀て何とも感じなかつた様であつたが、私は憤慨に堪へなかつた。元來此御堂の下、塹壕の中に永眠して居るものの半數は獨逸兵ではないか。然るに御堂は慈々佛蘭西兵の爲に建てた書いてあるのは我々の武士道は全く違ひ如何にも冷酷でゆかりがない。如何にも獨逸は當時米國の敵であつたが祖國の爲に忠死した此獨逸の兵卒其者、まして死んだ靈魂に對し何の怨があらうぞ。かく考へて來る白人のやる事は如何にも現金主義である。加州に於ける日本人排斥の心持も分るやうに思ふ。私はかかる不滿を抱き乍ら日本に歸つた直後高野山に於て島津維新の建立した朝鮮役に於ける敵味方の冥福を祈る立派な碑ある事を知り、之ある哉と思ひ覺えず快哉を叫んだ。夫から段段調べて見るに實に楠公が此始祖である事を發

第二四頁に續く

學 內 報

第一學期試驗施行

本學年度第一學期試驗を左の通り施行した。

大豫部

自七月七日

至七月十四日

專門部

自七月七日

至七月九日

第一學期授業終了

本學年度第一學期授業を左の通り終了した。

學部各科各學年共

大豫部各科各學年共

專門部各科各學年共

七月三日限	同日限	同日限
-------	-----	-----

千里山學舎門欄竣成

工事中であつた本學千里山學舎門欄はこの程漸く竣成した(表紙挿入寫眞参照)。

第四回夏期語學講習會開催

本學第四回夏期語學講習會を例年の通り左記に依り福島學舎に於て開催することに成り、既に本月十二日を以て開講した。

一、聽講者 男女を問はず入會を許し、女子聽講者のためには特別席を設け、尙ほその數多き時は別に女子部を置く。

二、組 織 英語、佛語、獨語の三科を置き英語科は中等學校卒業以上の素養ある者

を、佛語及び獨語科は何れも初學者を收容す。

三、授業時間 各科共午後六時より八時まで
四、課 程 英語科—譯解、佛語科—發音譯解、文法、獨語科—發音、譯解、文法。



五、講 師 本學專任教員中左記諸氏が各擔任する筈である。

英語科—村上喜貞、櫻井匡兩教授

佛語科—徳尾俊彦講師
獨語科—野村次夫講師

經濟學部學生の 手形交換所見學

本學經濟學部經濟學科第三學年の學生にして宮島教授指導の下に金融のセミナーをこつてゐる八名は、他の有志數名を加へ去る六月二十二日宮島教授に率ゐられて市内中之島大阪手形交換所を見學した。午前十時半中央公會堂前に參集、直ちに交換所に至り同所監事渡邊恭綱氏の先導にて所内

H. Exc. The British Ambassador's Message to the Students of the University.

British Embassy, Tokyo, June 8th, 1926

Dear Prof. Miyajima,
(The foregoing paragraph omitted)
I have great pleasure in wishing them (the students of English of Kansai University) every success in their studies and I trust that the knowledge of the English language and English literature to which they aspire will bring with it friendship for my country and appreciation of what is British. The sum of their individual understanding of the British spirit will I feel sure be a great asset for the strengthening of the ties of friendship between our two countries, a friendship to which we in England attach the highest value.

May I dwell especially upon the importance for the Students of reading and entering into the spirit of the best English literature, not confining themselves to the special branches such as law or economics, but making real acquaintance with the greatest masters of prose and poetry. For education to be thorough it must begin with general culture and mind training before the students can usefully specialise in their studies.

From all that I have heard and observed I know that your Japanese students have not only great ability but unflagging perseverance, and I am sure that they can accomplish and will accomplish any task that they have set before themselves.

I offer my best wishes for the prosperity of the University.

Yours faithfully,
JOHN TILLEY.

(照參事記報衆生學) 信書のと下閣使大國英日駐

本學夏期學外講演

例年の通り本學夏期學外講演は頁所報の題目の下に、各專門を有する本學教授諸氏がそれぞれ各地方の求めに應じて出講することに成つた。因に山陰、四國等の地方から既に申込あり何れも應諾した。

の設備を一通り見學しつつ同氏より詳細なる説明を聴き、引續いてモーニング・クリアリングの實況を見學した。終つて一同別室に引揚げ渡邊氏を中心に種種質疑應答あり午後一時頃辭去した。

佐竹評議員鐵道省 政務次官就任

本學評議員、前理事、法學博士佐竹三吾氏は

催にかかる第二回關西中等學校雄辯大會は去る六月五日午前十時半から中之島中央公會堂に於いて開かれた。關西の各中等學校を網羅する數十名の青年辯士は交立つて熱辯を振ひ或ひは社會を憂ひ修養を説き午後五時半の閉會に至るまで時の移るのを忘れてゐた。聽衆亦多數で頗る盛會であつた。當日は宮島關西大學教授、木下本校主事其他各教諭も出席特に中村教諭は辯論部長として一場の挨拶をなした。閉會後各辯士辯論部委員其他一堂に會してささやかな懇親會を開いた。

附屬第二商業學校彙報

這般鐵道省政務次官を命ぜられ就任した。教諭新任 この度第一學年商業簿記擔任教諭として經濟學士有井治氏を新任した。關西中等學校雄辯大會 同校學友會文藝部の主

校友の面影

▲辯護士 山崎 有 信 氏▼

明治二十九年法律學科出身

去る大正十一年八月北海道旭川市北海タイムス社が旭川十傑投票にて旭川市現住の傑物十人を一般投票に問ふたことがあつた。その際第六位に當選したる人に我が山崎有信氏があら。而して氏の文才は能く他に先んじて右投票の顛末並びに所謂十傑の抱負を集録するの任を囑せらるる因こなり、氏はここに「旭川十傑」なる一冊子を著はすに至つた。過般同書及び氏が最近の著述たる「天野八郎傳」を本學圖書館に寄贈せられたるを機とし、兩書を紹介するの意味に於いて氏の經歷の一端を記し以て聊か氏の面目を傳へ度いと思ふ。



山崎 有 信 氏

ひ母の情けで再び前の大恩寺へ養子に行くことになつた。斯くて氏は十四歳頃まで僧になる爲めの修業を種種積まされたが志ここにあらざれば遂に機を伺つて寺を出て小學校の教員になつたりしつひたすら勉學の道をしんだ。此の頃氏は軍人たらんとして陸軍幼年學校に入らんしたが遂に成らず奮然志を立てて郷關を出奔した。目指す所は東京、而も懷中に旅費は少ない、途中名狀すべからざる困苦を嘗めつつ辛じて東京に着し知人

氏は明治七年の一月福岡縣企救郡曾根村大字葛原字足立の一農家に生れた。父を山崎孫三郎云ひ氏は其四男で幼時は末吉云つた。六歳の時父母の懷を去り扶持を以て近在の大恩寺云ふ寺に行き、其和尚に讀み書きを教はつた云ふ。寺に居るこ一年、郷里に小學校が出来たのを機會に實家に歸つて學校に通ひ年少ながら、拔群の成績を示したが、家庭の都合で半途にして退くの止むなきに至つた。然し氏は家に在つて百姓なることを嫌

の助けを得て、漸く素志を達し幼年學校に入つた、年漸く十七、八歳の頃である。然るに天未だこの人に幸ひせず過度の勉學が災して進級試験に失敗し半途退學の非運に會した。幸ひ友人の慰藉と激勵に依つて失望の淵より救はれ、其後あらゆる浮世の荒浪を闘ひつ群馬、奈良、兵庫、大阪等の各府縣に或ひは監獄の看守となり、或ひは裁判所の雇ひなつて轉轉し、其間本學の前身たる關西法律學校を卒業した。明治三十六年高等文官試験を

受くる目的を以て再び上京し文筆の仕事に従事しつゝ試験を受けたが亦成らず日露戰爭の始まるや陸軍省雇員として渡滿した。明治三十九年三月日本に歸り馬政局、拓殖局等に勤むる傍ら文筆に親んだ。

大正五年、歳四十七の時感ずるころあつて辯護士の試験を受け直ちに登第、翌年更に判檢事試験を受けんしたが先輩の忠告に従つて之を止め、大正六年の末北海道旭川市に移つて辯護士事務所を開いた。爾來孜孜として業務に勵み傍ら旭川市の發展に貢獻するころ亦大である。

貧困より身を起し幾多の辛酸を経て遂に今日の名を成す、氏の如き蓋し立志傳中の人として推賞するに足るであらう。旭川市の市民が同市の代表的人物として氏を推したる亦宜なり云ふべく、吾人は更に將來氏がこの一般的興望に酬ゆるころ益大なるべきを信じて疑はぬ。

校友彙報

校友會愛媛支部設立計畫

かねて問題となつてゐる本學校校友會愛媛支部の設立に就いては目下同地校友數氏に依つて具體的に計畫が進められてゐるが、本月下旬夏期地方講演に本學教授講師數氏が同地方へ出向くべきを機とし、松山市に於いて校友會愛媛支部發會式並びに第一回總會を開催する豫定になつてゐる。就いては愛媛縣在住校友が振つて右發會式に出席せられ度き事及びたさひ出席不能と雖も右支部に加盟せられ度き事を同會では希望してゐる。尙ほ休暇歸省中

の學生の參會も大いに歡迎する由であつて入會申込其他紹介は左記へせられ度き由である

松山市湊町愛媛新報社編輯局内

長 埜 友 市 宛

高村、森口兩校友の

辯護士副會長當選

明治三十九年本學法律學科卒業の高村久之助氏及び同森口梅吉氏は過般の大阪辯護士會總會に於いて同會副會長に當選し兩氏共その任に就いた。

中川校友より來信

北米ニウヨーク市コムビア大學在學中の校友、中川庸太郎氏より、五月二十日附、本學宮島教授宛の書信過般來着、これに依れば同氏は健在にて研學を續ける由、又千里山學報を通じて母校發展の模様を知り、遠く異郷よりその喜びを寄せてゐる。

校友 動 靜

野阪眞三氏(大五專法) 今回臺灣總督府に奉職することになつた

名倉熊藏氏(大一二商) 兼ねて奉職中なりし大阪稅務監督局を辭し、この度大阪合同紡績株式會社に入社した。

本田捨松氏(大二三法) 去る四月から八千代生命保險株式會社に勤務することとなり東京本社に赴任した。

三輪忠邦氏(大五法) 過般京都府福知山商業學校教諭に任ぜられた

長谷川威亮氏(明三八法) 今回朝鮮新義州地方法院江界支廳判事に轉補せられ同地へ赴任した。

岡 勇氏(大四專商) 今回西區勸上通二

丁目四、佐々木營業所倉庫部に入つた。
馬場次郎氏(大一一法) この度南區高津町
一〇番町一〇番地に法律事務所を移轉した
藤原徹鎧氏(大一一專法) 目下神戸鐵道局經
理部倉庫掛に勤務中

校友住所移動

野坂眞三(大一一專法) 臺北市御成町一一一五平田
喜作氏方

名倉熊藏(大一一商) 東區北久寶寺町一大阪合同
紡績株式會社内

三輪忠邦(大一一法) 京都府福知山町堀一四五七
山中源喜(大一一專法) 此花區今開町二丁目一四一
澤田氏方

森英之助(明三九法) 天王寺區汐町二丁目二〇地
(電話南六三四番)

福田吉太郎(明四四法) 此花區西島町北港住宅一三
一一一

毛利尙夫(大一一專法) 岡山縣倉敷町

深瀬義廣(大一一商) 京都市寺町今出川上西入御
輿町上田氏方

鳥居 勝(大一一商) 神戸市四番町二丁目一〇五
長谷川威亮(明三八法) 朝鮮平安北通江界西部洞官
舎

築瀬春雄(大一一專法) 東成區鶴橋木野町七〇番地

吉村種藏(明三〇法) 南河内郡藤井寺大字岡六〇

鎌田 清(大一一專商) 住吉區住吉公園一九號地

藤原徹鎧(大一一專法) 神戸市東須磨新田一三ノ二
安富敬作(大一一專法) 北區空心中町一丁目二小谷法
律事務所内

脇 房助(大一一經) 東成區生野國分町二九九桃
花藥内

佐伯三郎(大一一專經) 東淀川區國次町三四五河北
氏方

中永美雄(大一一法) 岡山縣赤磐郡高陽村
志野覺次郎(明四二商) 兵庫縣武庫郡精道村芦屋字

寺田一七

三宅 萬吉(大一一專經) 神奈川縣川崎市榎町三

第二商業學校辯論部主催「関西中等學校
學生雄辯大會」記念撮影一別項記事参照



校友改姓名

大一一商 田中勝鳥居勝
(舊) (新)

校友逝去

大正十五年五月十五日
林 茂氏
右訃音に接し謹んで弔意を表す
大正十四年商學部商業科卒業

學生彙報

第三回中等學校英語雄辯大會並に本學英語演說會

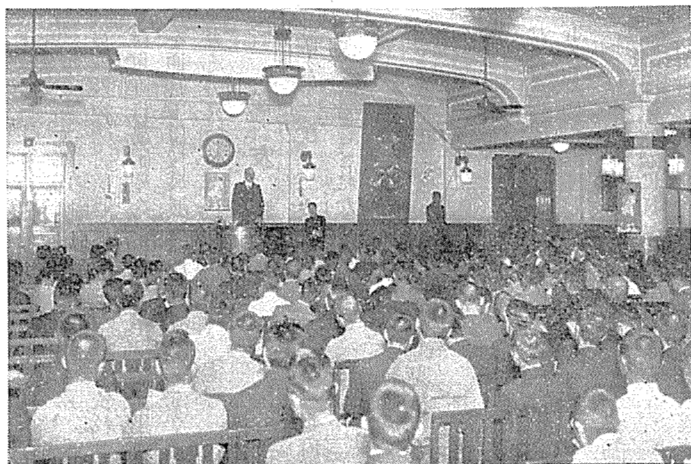
本學英語會主催第三回中等學校英語雄辯大會
並に本學英語演說會は去る六月十九日午後
六時から大阪毎日新聞社後援の下に同社樓上
大ホールに於いて開かれた。参加中等學校十
餘校、聽衆堂に溢れて頗る盛會であつた、定



英語會その二(記念撮影)

刻先づ音學部の學歌演奏あり瀬戸君開會を宣
するや各校選手は交壇上に立つて或ひは演說

に或ひは暗誦に日頃修得の技倆を競つた。其
間大阪駐在英國領事カンニングハム氏は莊重
英語會その一(講演中・英國領事)



な語調を以て一場の演說を試み聽衆に深き感
銘を與ふるあり、又英文毎日記者池田氏は後
援者を代表して挨拶をなした。午後八時より
更に第二部に入り本學學生の英語演說、音樂
部の演奏、野村本學講師のドイツ語演說、軍事
教官横卷大佐の諧謔に満ちた英語の物語りあり、更に宮島教授は本學を代表し日本語を以
て挨拶したる後英國大使がはるばる本會に對
して送られたメッセージを朗讀して遠く同大
使に敬意を表した。其後櫻井教授は人格修養
について語るころあり續いて本學講師○ー
リングズ氏は審判員一同に代つて第一部のこ

ンテストの結果を次の如く發表し直ちに本學並びに英文毎日寄贈の賞品を夫夫授與した。斯くて午後十時飯田講師の閉會の辯に依つて盛會裡に最後の幕を閉じた。中等學校英語雄辯大會優勝者

第一等賞(神戸第一神港商業學校)井上吉行君、第二等賞(明星商業學校)木崎進一君、第三等賞(關西學院中學部)津久井三郎君

因に同夜のプログラムは下の通りであつた。

千里山雜誌部近況

千里山雜誌部が本年初め雜誌「千里山」を發刊したことは既報の通りであるが、新學期に入つてから從來の方針を多少變更し、手輕な形式に過度發行するこゝし、過般四頁の新開型にして第一號を發刊した。題名は此前の「千里山」を襲踏してゐる。内容も前の夫々大なる變りない。

千里山辯論部報

辯士派遣 其後千里山辯論部から各方面に派遣した辯士は次の如くである

五月三十日 京都立命館主催雄辯大會へ (法一) 藤原清治君

五月三十日 大阪高等商業學校雄辯大會へ (豫三) 田中基次君

六月四日 京都同志社高商部雄辯大會へ (豫三) 田中義雄君

六月七日 大阪學生雄辯聯盟會雄辯大會へ (法一) 清水政秀君 (經二) 増子一己君 (豫三) 中石清一君

PROGRAMME

PART I

- The Third Annual Inter-secondary-school English Oratorical Contest
- Chairman... Mr. Z. Takebayashi... (專門部經濟學科第二學年) Kansai University Plectrum Society (關西大學音樂部)
1. The University Song... Mr. K. Seto (專門部經濟學科第三學年) (京都市立第二商業學校)
2. Opening Address... Mr. T. Funaoka (關西甲種商業學校)
3. May struggle come to an end... Mr. T. Tamai (明星商業學校)
4. Young People... Mr. S. Kisaki (關西學院中學部)
5. The Newspaper... Mr. S. Tsukui (天王寺商業學校)
6. True Eloquence... Mr. S. Nishiot (關西學院中學部)
7. A passage from Rousseau's Confessions. Music, "Aurora" (Fantaisie brillante) L. Fantuzzi op. 71... Kansai University Plectrum Society (關西大學音樂部)
8. How Theodore Roasvelt overcame his handicap... Mr. K. Tsuchiya (和歌山縣立商業學校)
9. The Two Roads... Mr. Y. Inagaki (關西大學第二商業學校)
10. True Greatness... Mr. B. Morioka (市岡商業學校)
11. Address... Mr. W. G. Cunningham, British Consul in Osaka (大阪駐在英國領事)
12. Possess Two Points of view... Mr. Y. Inoue (神戸第一神港商業學校)
13. The Two Roads... Mr. S. Maekawa (和歌山中學校)
14. Message of H. Exc. The British Ambassador in Tokyo to the University Students of English... (駐日英國大使閣下) (神戸商業學校)
15. The Message of the Rightousness... Mr. K. Ito... (英文毎日記者)
16. Address... Mr. H. Ikeda... (英文毎日記者)
17. Salutation... Mr. S. Koshitaka

PART II

- The University Students English Oratorical Exercises
- Chairman... Mr. A. Yotsuji... (經濟學科第三學年) Kansai University Plectrum Society (關西大學音樂部)
1. Music, "La Légende de Pierrot," (Fantaisie-Pantomime) Ch. Feret. No. 1. Sérénade pizzicati. No. 2. Pierrot danse. No. 3. Pierrot's endort. No. 4. Apothéose... Kansai University Plectrum Society (關西大學音樂部)
2. Salutation... Prof. T. Miyajima (關西大學教授)
3. The Spirit of Poetry... Mr. N. Iwai (大學豫科第二學年)
4. The Promotion of the National Prosperity... Mr. S. Taniguchi (專門部商業學科第二學年)
5. Ewiger Friede od. Ewiger Kampf? (Die Betrachtung eines Nationalökonomem... Dr. T. Nomura (關西大學講師)
6. A Hint of Love... Mr. K. Inamura (大學豫科第三學年)
7. Music, "Une Fete Séville" (Belero) Edger Bara... Kansai University Plectrum Society (關西大學音樂部)
8. Address... Colonel S. Yokomaki (關西大學軍事教官)
9. Address... Prof. M. Sakurai (關西大學教授)
10. The Importance of the Study of Foreign Languages... Mr. R. Kawai (專門部商業學科第三學年)
11. Closing Remarks... Mr. S. Iida... (關西大學講師)

(豫二) 白川惠宜君

六月十二日 神戸關西學院主催雄辯大會へ (法二) 藤下益治君

六月十九日 大阪齒科醫專主催雄辯大會へ (法一) 伊藤新治君

豫科學外雄辯大會 設立後最初の試みとして去る六月十二日午後一時から天王寺公會堂に於いて題記の大會を開催した。多數の新入會員

一現代思想上より觀たる社會問題

一司會者挨拶

一宗教に就いて

一暗黒より黎明へ

一私學に對する社會的偏見を難す

一最も手近き問題二、三

一平等の根本義と社會制度

一人間本能的より觀たる社會問題

一閉會之辭

篠田忍成君

中石清一君

西田竹雄君

進正男君

青野庄平君

白川惠宜君

田中茂雄君

田中基次君

辰巳孝治君

ミを同部では感謝してゐる。

一閉會の辭 (本學) 榎本信夫君

一我國婦人問題の過去と現在 (本學) 辰巳孝治君

一自由の史的段階 (法政) 神長謙五郎君

一勞資の不可分性と勞働問題 (本學) 中石清一君

一社會政策と公娼制度 (法政) 阿部敏磨君

一近世立法の精神と生存權(本學) 萩原精治君

一言論の社會的使命 (法政) 西村正君

一現代法律思潮について (本學) 八澤俱好君

一知識階級を論ず (法政) 西周雄君

一部長挨拶 (本學) 佐々教授

一現代社會科學の使命 (本學) 清水政秀君

一所感 (本學) 宮島教授

一法律の民衆化を論ず (法政) 古館要君

一閉會之辭 (本學) 伊藤新治君

を交へて意氣軒昂頗る盛會であつた。

プログラム

一開會之辭

一現代の世相を顧みて

一禁酒禮讚

一凡人崇拜

一滿蒙のために

一日本刀は錆びたり

一民衆藝術と其使命

岩成長次君

永橋政一君

小山夏次君

灰上徳君

長根泰雄君

澤田金康君

富田清平君

法政大會との聯合講演會 從來屢催されてゐる全學學生雄辯大會の缺點に鑑み、去る六月十二日午後六時から天王寺公會堂に於いて最初の試みたる法政大學及び本學の聯合學生雄辯大會が開催せられた。開會に先つて聴衆既に堂に溢れ近時稀な盛況を呈した。プログラム次の通りで殊に宮島佐々兩教授が多忙な時間を割いて出席各一場の挨拶を試みられたこ

に池谷軾氏を煩し部員總出で或ひはマンドリン四重奏に或ひは幻想曲に聴衆の魂を天外に運び去つた。曲目の主なるものとしてはモツアルト作物場の主、ブレイ作、マブルカ樂しき速歩、ジユリアン作材の祭典、クレー作水車場のほろり、フェーレー作ピエロの物語ファンタウジー作黎明、バラ作セヴィラの綠等で初夏の夕涼しき樂の音に心を澄まさんこ

音樂部演奏會

本學千里山ブレクタラム・ソサイエティーでは去る六月二十五日午後七時から大阪朝日新聞社ホールに於いて演奏會を催した。指揮者に池谷軾氏を煩し部員總出で或ひはマンドリン四重奏に或ひは幻想曲に聴衆の魂を天外に運び去つた。曲目の主なるものとしてはモツアルト作物場の主、ブレイ作、マブルカ樂しき速歩、ジユリアン作材の祭典、クレー作水車場のほろり、フェーレー作ピエロの物語ファンタウジー作黎明、バラ作セヴィラの綠等で初夏の夕涼しき樂の音に心を澄まさんこ

會には本學相撲部も選手を派遣し力戦大いに努めた。

千里山應援團の組織

世上屬見られる應援團に絡まる弊風を一掃し規律あり節制あり而して冲天の意氣を失はざる新進氣鋭の應援團を組織する意味を以て、過般千里山大學豫科生全體を包含する應援團が形造られた。同團は各運動部の活動を聲援し、之を共同して以て本學の名聲を高めんことを期してゐる。新に選ばれた役員次の通りである。

- 團長—島久四郎(豫三)、副團長—河村龍雄(豫三)
 幹事—(總務委員)藤本繁次郎(豫三)、(會計委員)齋藤義雄(豫三)、(準備委員)山本二知郎(豫三)、
 朝倉茂直(豫二)、木本儀三郎(豫二)、奥村正一(豫二)、高橋政一(豫一)、赤司憲二(豫一)、永橋政一(豫一)、淺川文夫(豫一)

福島庭球部遠征

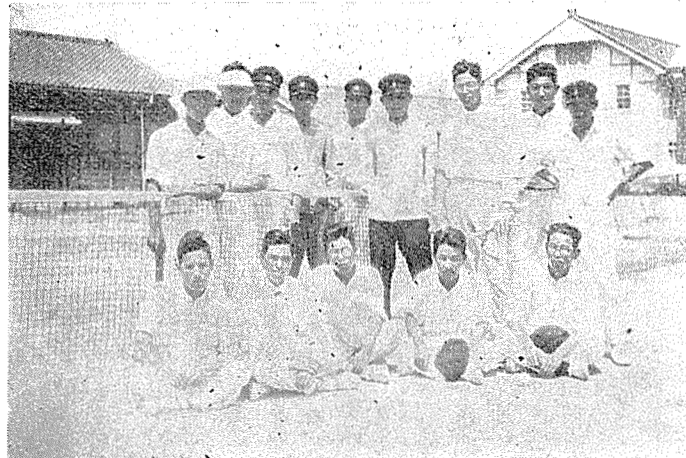
新學年以來日夜猛練習を續けて來た福島庭球部は井原部長平田マネジャー引率の下に一行八名去る六月四日午後五時天保山發多數學生の見送を受けて四國中國遠征の途に就いた。翌五日午前五時高松港着、高松高商庭球部員の出迎を受けて寶旅館に投じ午後は高商コートに於いて練習をなした。

六日午前十一時期待せられて高松高商との對抗戦は觀衆の拍手裡に開かれた。戦績次の如くゲームの進むにつれて兩軍選手の熱球は火花を散らしたが最後の決勝戦は日没の爲め試合不能となり結局ドングゲームに終つた。

(ダブル)

- 本學 高松高商
 中村、伊丹54——67太田、宮田

平田	西村	井原	藤井	中村	伊丹	藤
646	646	33	33	66	66	364
163	163	66	66	24	32	636
邊	邊	村	村	佐	立	藤
堤	堤	吉	吉	々	石	村
崎	崎	崎	崎		木	



高松高商對本學福島庭球部試合
 記念撮影(高松高商校庭にて)

平	田	井
66	66	66
34	34	34
邊	邊	邊
崎	崎	崎

試合終了後田村食堂に於ける高商主催の歓迎宴に臨み吳越同舟胸襟を開いて歡談した。七日早朝早朝丸にて高松港出帆尾道を経て廣島驛着午後五時から同地に於ける歓迎會に列し

翌日は午前午後交互つて練習を續けた。九日午前十時から廣島高工コートに於いて廣島オーソニニス俱樂部と對戦し、よく敵を壓迫したが利あらずして遂に惜敗した。十日午前十時から高師コートに於いて高師軍と戦つたが、前日の疲勞の爲め我軍振はず井原、平田、藤井各選手盛んに活躍したが終ひに敗れた。

十一日午前六時二十五分廣島發同十一時半岡山驛着、六高選手の出迎へを受け直ちに六高コートに於いて同校選手と試合をした。一同ベストを盡して戦つたが連日の疲勞の爲にや我軍利あらず憾を吞んで退いた。同夜の歓迎會に臨んだ上一行は夜行にて岡山を發し翌十二日の午前六時無事歸阪した。今回の行について途中種種好意を寄せられた各地有志、並びに各校友に對して同部では深く感謝してゐる。(平田マネジャー報)

國際聯盟協會本學學生支部報

關西聯合會開催 去月十九日午後三時から大阪市商陳列場に於て、本學當番校となりて國際聯盟協會學生支部關西聯合會第三回研究會を開催した。出席者は同志社大學、京都帝大、關西學院、大阪外語、大谷大學(見學)及び本學の各委員にて三十六名を算し、特に本部から大熊眞氏も出席せられ、國際聯盟と經濟問題に就て研究討議した。本學支部からは中尾省三君が委員を代表して「國際聯盟と勞動問題」の題下に、植民地解放を唱へ、論議百出、盛會裡に閉會、夕食後來る十一月二十三日大阪外語校講堂に於て開催せらるる筈の國際聯盟模擬總會の準備委員會を催し九時半頃散會した。

懸賞論文募集 會員の研究に資せんため、同支部では來る夏期休暇を期し、左記により懸賞論文を募集することにした。會員諸君並に一般學生諸君が奮つて應募されたい。

一、論題

- 國際聯盟理事會改造問題
- 國際經濟問題

但、一名ニテ兩題ニ應募シ得。二十字詰二十行原稿紙十枚以上二十五枚以内ノ事、

- 應募資格者 關西大學在籍ノ學生
- 募集期間 自七月十五日至九月二十五日

四、審査及舞表

- 應募論文ハ自作ニ限ル
- 審査ハ支部長及顧問之ヲ行フ
- 審査ハ先着順トシ、同點者ハ會員ヲ先ニ採ルモノトス
- 表發 十一月一日頃
- 賞 優秀佳作ニ對シテハ相應ノ謝禮ヲ呈ス 賞金ハ發表後一週間内ニ贈ル 以上

千里山短歌會水無月例會

去六月九日午後二時半から千里山學舎第二十二教室に於いて短歌會水無月例會を催す。會する者十數名例に依つて別項の出詠歌について各自意見を闘はし歌談に花を咲かせて薄暮和氣斐裡に散會した。

第十二回工業見學

千里山工業見學團では五月二十九日陸軍造兵廠大阪工廠の見學を行つた。當日は雨天であつたのにも拘らず横卷、田中、板津の各教官水谷、中村兩教授、河村、賀來、大立目の各講師、松崎學生監を始めまして學生二百二十

餘名の出席者があつた。先づ同廠火砲製造所長大角少佐の兵器器材に關する有益なる講演があり、次に自動車火砲彈丸信管各製造工場等を隈無く見學して裨益する所が甚だ多かつた。終りに見學團一同は本見學に關する同廠各員の御説明御案内の勞を多謝する次第である。

第十三回見學

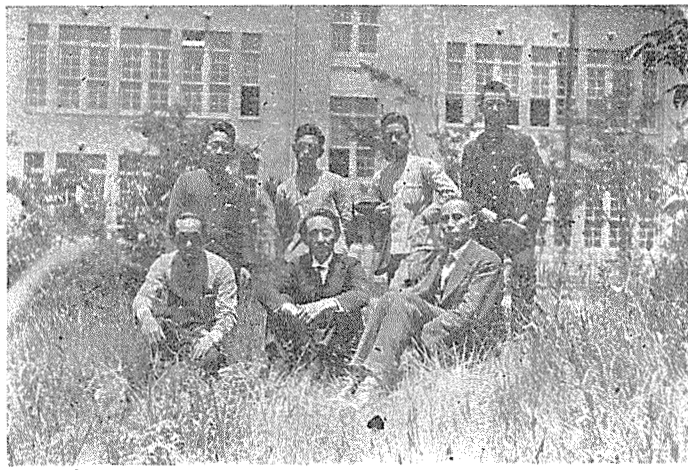
六月五日日本學記念日の休日を利用して半日を見學に暮した。先づ午後一時大阪醫科大學前に集合して同校を見學した。人體を一の機械として取扱ひ其故障に對する對策を研究するのを醫學とすれば、人體各部の器官の解剖に就て各種の標本を觀、尙實際の病理解剖を見學する事は廣い意味に於ける工業原動機の見學と云へるであらう。此の意味に於て同校見學も甚有感義なるものと考へられる。加之基礎學として生理學を學び生物學の講義を聞きつつある一同は本見學に依つて學習上得る處甚大なりし事を感謝する。尙本見學に關して示された醫科大學教授にして本學講師たる吉田博士の御厚意に對して多謝する次第である當日同學病理教室設付の各種標本に就て同學醫員の詳細にして懇切なる説明を聞き次で折柄實習中の病理解剖室を覗き最後に同學附屬病院の各階を一巡して進歩せる各種の施設及病室を見學した。終りに各醫員事務員諸氏に對し御案内の御禮を申述べる。

第十四回工業見學

六月五日醫大見學を終へた一行は次で玉江町一丁目樺太工業株式會社中之島支店に赴いた同支店は元中之島製紙會社として堅實なる發

達をなし製品は内地は元より海外に迄賣出し居たるものである。本年右中之島製紙は中央製紙、九州製紙の二會社と共に樺太工業株式會社に合併し今日に於ては四千五百萬圓の大會社の一大工場と成つてゐる。従つて合併後業績の進歩は著しきものあり、製造工程に於

東北、北海道郷友會記念攝影
(前號學生會報記事參照)



ても各種の改良を企てた。當日同社員の案内に従つて原料室より叩解室、着色室、抄紙室荷造室等を順次見學して廢物利用の一大適例を實見し裨益する處少なく無かつた。本見學に關して同支店長並に御案内の諸員に厚く感謝する次第である。

第十五回工業見學

六月五日午後三時半大阪毎日新聞社前に參集した普學團は同社を見學した。大會議室から紙型鉛版製造、活字製造、輪轉機等に就て夕刊印刷中の大活動を見つ機械の運轉喧噪の内に同社員の見學を煩したる事は特に厚く御禮を申述べる次第である。(見學團幹事報)

第十一回皇陵崇敬會例會

並に第二回戰蹟研究會例會

五月二十三日、第十一回皇陵崇敬會例會並に第二回戰蹟研究會例會開催せらる。當日早朝部員一同梅田驛を出發、陵墓守長清海氏の出迎へを受けて攝津富田に着、同氏に導かれて墨粟の花咲く畑道を通り三島陵に參拜した、同陵にて清海氏より巒骨席三島監野陵の由來に關する講話を聴き、更に行を更めて、再び上車山崎に行く。

山崎驛より往昔山崎合戦が行はれたと云ふ附近の戰蹟を弔ひつつ小倉山神社に參拜、次で金ヶ原の土御門帝陵に參拜して中食を喫す。土御門帝金原陵後鳥羽帝の第一皇子、世に土佐院、阿波院と稱す。承久三年後鳥羽上皇、順德天皇と相謀り北條氏を討たんとして成らず、上皇天皇共に隱岐土佐に遷幸の事なる土御門帝は父上皇の遷幸ありしにさうして獨り都に止まるを得やうと旨を北條義時に傳へ自ら土佐に移り後阿波に移り寛喜三年十月十一日御配所なる阿波國撫養村に崩去遊ばざる其地にて火葬し御骨は西山の金ヶ原の御堂に納め奉る。即ち今の陵之である。然し今は御堂なく八形堂の趾のみ残つてゐる(帶谷氏陵墓誌拔萃による)

御陵參拜終了後戰蹟研究をなすべく直ちに道なき急坂を登り天王山頂に達す。山頂より見れば北から延びたる山脈は淀川に依り斷たれ其尾の端は淀川を挟んで男山と相對立してゐる。此處は京都入をなす西方の關門にして、山頂より來たれば中腹に維新の際長州志士横豊後守以下十六士が割腹したところがある。此處に於て横卷大佐の戰蹟講話あり、自玉手祭來酒解神社も程近く、延喜式内大社にして其神輿は鎌倉時代の板庫の標本である。中の神輿も又頗る優作である。講話中俄かに雨來る天下分目の戦もかかる中に行はれしならん、茶店に憩へば老人あり。我等一行の爲め維新の志士に就て話す。雨漸く止み一同下山して加賀正太郎氏の大山崎山莊を訪ふ。此處に同氏の意を注いで栽培し居る蘭あり、内外蘭數百種を温室に集む、蘭栽培に於ては全國屈指の由。今日は我等のために特に解放せらる。蘭栽培主任後藤氏の案内を受けて室内限なく拜見。其蘭種の多種多様なるに驚く。且つ其栽培の容易ならざるを見聞して今更讚嘆致すのみである。充分なる待遇に預り此處を辭し寶寺に參拜す。此の寺は打出の小槌を以て知らる所である。夕刻一同充分一日を有意義に費して歸阪す。尙ほ當日御世話下されし清海氏後藤氏に深く謝して筆をおく。

當日の出席者、横卷大佐、河村講師、山本順應、齋藤淡森、井惣吉、奥川武郎、湯川政一、山本克巳、木梨南狂、木梨葵堂、稻垣三郎、河村信典。

山岳部第一回登山

創立後幾何にもならない千里山山岳部は其第一回登山として去る六月六日午前八時寶塚を發して北攝の大峰山を踏破した。雨中の阪道に足許をさられたり、山鷲の聲を聞いたたりし

(第二四頁に續く)

近世奴隷制度 (續)

ジェー・ケー・イングラム

奴隷制度廢止運動の發展

奴隷制度廢止の先驅者たるの名譽は英國よりも寧ろデンマークに歸する、即ちデンマークでは、同國の領域内に於ける奴隷貿易は一八〇二年末以後これを禁止する旨の勅令が一七九二年の五月十六日に發布せられた。アメリカ合衆國は一七九四年に、同國民が外國への奴隷貿易に携はることを禁じたが、同國民は更に又アフリカから自國の領域内に奴隷を輸入することを禁ぜられた。この法令は一八〇七年の三月二日に通過したが、然し翌八年の一月一日まで實施さるるに至らなかつた。

ウィアンナ會議 (Congress of Vienna) 一八一四年十一月に於て「奴隷貿易は出来るだけ速かに廢止すべきもの」の原則が承認せられた。ただ廢止時期の決定は各國間の別別の商議に委せられた。

如何なる他國民も將來佛國の植民地に奴隷を移入せざるべきこと、及び一八一九年の六月一日以降佛國民自身に對して奴隷貿易を絶對に禁すべきことが、佛英兩國間の一協約 (一八一四年五月三十日) に於て約定せられた。この廢止時期の延期は、若しその島が恢復せられたならば、ハイチ島へ新しき奴隷商品を齎らさんこの希望に基くものであつた。ポナバルトは、既に述べた如く、その短かき復興期間中佛國の奴隷貿易を廢止した、而してこの廢止は一八一五年十一月二十日の第二回パリ平和會議に於て確認せられた、然しそは一八一八年三月に至るまで佛國法に依つて有効には實

施されなかつた。

一八一五年一月にポルトガルの國民は赤道以北に於て奴隷貿易に従事することを禁ぜられた、而して爾後該貿易が何所に於てたるを問はず不法たるべしとふ期間は一八二三年一月二十一日に満了すべき旨定められたが、その後更に一八三〇年二月まで延期せられた。英國は償金として三〇〇、〇〇〇磅をポルトガルに支拂ひ、ポルトガルの何れの地からの奴隷の輸出をも禁すべき旨の勅令が一八三六年十二月十日に發布せられた。然しこの勅令は屢違背せられた。英國は又四〇〇、〇〇〇磅の償金をイスパニアに支拂ひ、イスパニアの奴隷貿易が一八二〇年に終末を告ぐべき旨約定した。スウェーデンでは、一八一三年に廢止せられた。

セントの平和會議 (Peace of Ghent, 一八一四年十二月) に依り、英、米兩國は何れもその全力を擧げて奴隷貿易の絶滅に盡す義務を負ふ旨を互に約した。南アメリカ諸國の或のものに於ては、例へばラ・プラタ、ヴェネセラ、チリ等に於けるが如く、それぞれ獨立權を獲るや否や、奴隷貿易は直ちに禁止せられた。

一八三一年及び一八三三年に、英國は佛國と協約して、一定領域内の海上を搜索するの權利を相互に有するものとし、他の多くの列強もこの協約に従つた。又北米合衆國のアシユバートン條約 (Ashburton Treaty, 1842) に依り、アフリカ西海岸に於ける艦隊の共同支持の準備がなされた。

總てこれらの方法に依り、奴隷貿易は、それが歐洲諸國の國旗の下に營まれたものである限り、若くはその植民地への供給のためになされたものである限り、全く存在せざるに至つ

た。

奴隷制度反對運動

この間他の更に根本的な改革が既に準備されて居り且つ既に進行しつつあつた、歐洲の二三の國の海外領地に於ける奴隷制度そのものの廢止即ちこれである。英國の奴隷貿易が全然終熄するや、該貿易の禍害は、それが尚ほ二三の國民に依つて繼續されてゐるが故に著しく深められたことが判つた。英國巡洋艦の活動の結果、該貿易業者は各航海毎に出来るだけ多くの奴隷を輸送するために著しき努力をなし、又拿捕の切迫せる際に奴隷を處分するため甚しい憐忍非道を敢てした。尚ほ又、奴隷積載船を拿捕するための犠牲を分擔しなればならなかつた巡洋艦に取つては、奴隷の積載されることを防止することよりも、寧ろ積込まるべき奴隷を認めることの方が問題であつた。以前の三倍にも當る程の多數の黒奴がアフリカから輸出され、而もその三分の二が海上で慘殺された云ふことである。更に又英國の奴隷貿易の廢止は決して西印度に於ける黒奴の待遇を改善するものではなかつたといふことが判つた。即ち新しい供給が杜絶したため奴隷は過度の勞役を強ひられ、その数は急速に減少して行つた。一八〇七年には西印度に八〇〇、〇〇〇の奴隷がゐるが、一八三〇年には七〇〇、〇〇〇に減じてゐた。かくこの害悪は奴隷制度そのものを全然廢止することに依つてのみ阻止され得る云ふことが益明になつて來た。

一八二二年にウィルバーフォース (William Wilberforce, 1759-1833) は、この新問題を議會の問題とするやバックストン (Sir Thomas Powell Buxton, 1786-1845) に勸告した。一種

の反奴隷制度協會が一八二三年に設立せられ

主なる會員には右兩者の外に、マコーレー (Zachary Macaulay, 1768-1845) ラシントン博士 (Dr. Stephen Lushington, 1783-1873) サッフィールド卿 (Lord Suffield) 等があつた。バックストンは一八二三年五月五日に、議會は英領植民地に於ける奴隷制度の状態を考慮すべしとふ動議を提出した。當時彼及びその同志が目的せざるころは、現存の奴隷のためには一種の隸農制度に類するものを設け、又同時に一定期日以後に生れたる彼らの子女總てを解放すべき法案を通過することに依る漸次的廢止云ふことに在つた。カンニング (George Canning, 1791-1827) はバックストン及びその同志に反對して、奴隷の状態及び待遇に關する望ましき改善策を本國政府から植民地議會に勸告し、ただこれを肯んぜざる場合に限りそれを強制すべく、王領植民地にしてそれ自身の議會を有せざるトリニダード島の如き場合にのみ直接行動を取るべき旨の動議を提出した。この結果周到なる改善策が植民地當局に提出せられた。ここに於てか、政府が反奴隷制度派の主張を黙殺せることに對する植民者たちの一般的反對の聲が囁々として湧き上つた。デマラタ (英領ギアナの一洲) ではこの勸告の到着を奴隷たちに知らしめざらんとする無用の企てがなされたため、彼らは自分達が解放されたものさ信するに至り、その結果勞働を拒絶し、強制が復活し、反抗が助長された。戒嚴令が布かれ、騒亂は非常な嚴酷さを以て鎮壓せられた、而して後にブローラム (Henry Brougham, 1778-1868) がその後を引継ぎ偉大なる能力を以て處理した。この「宣教師スミス (William Smith, 1769-1830)

の處置は、植民者たちに反對する強烈なる感情を英國内に眼醒めさせた。然し、バックストン、スミス、ラシントン、ブローラム、マッキントッシュ (Sir James Mackintosh, 1765-1832) バッターワース (Hezekiah Butterworth) デンペン (Thomas Denman, 1779-1854) 等が、マコーレー、ステイブエン (James Stephen, 1789-1850) その他の助力を受けて、ただ一時彼らが期待せる方策をして効果あらしむるため問題を植民地議會に委せてゐた間中止してゐただけで、絶へず闘ひ續けてゐたが、数年の間議會に於ては殆ど該問題の進展を見なかつた。一八二八年に有色自由民は法律的平等に關して一般市民と對等の立場に置かるに至つた。一八三〇年に或重要問題に關する重い求刑に對して輿論が喚起され初めた。植民者たちは奴隸を將來自由ならしめるために何ら積極的態度を取るものにあらざるべきが明かになりつつあつた、而して該運動の指導者たちは出来るだけ早い時期に奴隸制度の全廢を促進せんことを決した。政府は依然として曖昧なる態度を持し現存制度の緩和に腐心し續けた。遂に一八三三年にグレー卿内閣が該問題を引き受け苦もなくこれが廢止を斷行した、即ち該法案が一八三三年八月七日に下院を通過し同月二十八日に裁下を得た。

植民者たちに對する償金として二〇、〇〇〇、〇〇〇スターリングの金額が可決された。自由に達する過渡形態として七年間の徒弟制度が設けられた。奴隸はこの期間中晝間の四分の三だけその主人のために働かなければならぬ義務を負ひ、若し彼らがこの義務勞動に服しなかつたならば體刑を受けなければならなかつた。主人はその代り彼らに食物と衣服を供しなければならなかつた。六歳以下の小兒は總て即刻自由となり、彼らの宗教的及び道徳的教育のための準備がなされなければならなかつた。多くの人人は解放の延期を賢明にあらざる思惟した。アンティグワでは即時解放が行はれたが一般に極めて平靜で何らの騷擾もなく、一八三三年のクリスマス以後二十年間云ふもの平和を維持するために戒嚴令を布かるるやうなことは全然なかつた。政府側に於ける長い期間に互る熱心な反對があつたにも拘らず、下院はかの過渡制度の繼續反對の決議を可決した。この決議が可決された時植民地議會は奴隸が最早その主人のために働くことを肯んじないであらうと思ひ、その結果尙ほ二年間の徒弟期間を劃し、一八三八年の八月に一樣に奴隸に自由を賦與した。他の歐洲諸國は何れも漸次英國の例に倣ひ、アメリカ諸國の中には既にこの種の行動を取つてゐたものもあつた。佛領植民地に於ける奴隸の即時解放は一八四八年の暫定政府に依つて命ぜられた。一八五八年にはポルトガル領に屬する奴隸は皆爾後二十年間に於て解放さるべき旨定められ、同時に一種の保護制度が設けられた。この法律は一八七八年四月二十九日に効果を齎らし、爾後全ポルトガル領に互り奴隸制度は不法となつた。オランダは一八六三年に奴隸を解放した。二三のイスパニア領アメリカ諸國は、その獨立を宣言するに當り、各自國內に於ける奴隸制度廢止の法案を採擇した。メキシコ共和國は一八二九年九月十五日にこれを廢止した。ペロス・アイレスの政府は一八一三年の一月三十一日以後に生れたる奴隸の子は總て自由たるべき旨定め、コロンビアでは、一八二一年七月十六日

以後に生れたる子供は八歳に達すれば自由となるものとした。

北米合衆國

三つの最も重要な奴隸制度が尙ほ殘存し解放に向つての何らの方策も講じられてゐなかつた、南部北米合衆國、キューバ及びブラジルのそれである。

奴隸制度は原則としてアメリカ聯合の有名な教父たちの全然は認せざるころであつた。ワシントンは彼自身の奴隸の解放のために心算りをしてゐた。即ち彼はジェファソンに向つて「それに従つて自國の奴隸制度が法律に依り廢止さるべき或計劃の採用を見ることに自分の第一の望みの一つであつた」と言ひ又更にこの問題に關しては彼自身の賛同を缺くことは決してない旨書き送つた。ジョン・アダムス (John Adams, 1735-1826) は彼自身奴隸所有に大反對である旨宣揚し、且つ「慎重なる凡ゆる方策は結局に於てアメリカ合衆國の奴隸制度を全く根絶することを前提しなければならぬ」と述べてゐる。フランクリンの意向に就ては既に述べたが、マディソン (James Madison, 1751-1836) ハミルトン (Alexander Hamilton, 1757-1804) バトリック・ヘンリー (Patrick Henry, 1736-1799) 等も皆奴隸制度の原則を擯斥した、ジェファソンは奴隸制度に就て「余は神は正義なりてふことを想ふ毎我合衆國を見て戰慄せざるを得ぬ」と述べてゐる。この最後に擧げた政治家は英軍撤退後の最初の聯合植民地議會に於て西北地方政府に對し一法律案(一七八四年三月一日)を提出したがそれには「一八〇〇年以後上述諸洲の何れに於ても、犯罪に對する刑罰の場合の外、奴隸制度は勿論本人の意思に基かざる如何な

る種類の奴役をも存せしめざる」ことが規定されてゐた。この原案は然し失はれてしまつた。然しながら、ナザン・デー (Nathan Dane, 1752-1835) の發案になり、恐らくはマナーセー・カトラ (Manasseh Cutler, 1724-1803) に依つて起草された、オハイオ河の北西部の北米合衆國諸洲の政府のための一七八七年(七月十三日)の法案に於て、同地方に於ける奴隸制度は禁止せられた。その際憲法が制定されたころの、かの一七八七年のフィラデルフィア會議に於て、提案者たちの感情は奴隸制度に反對であつた、然し南部方オリナ洲及びジョルジア洲は聯合加入の條件として奴隸制度の是認を固執し、且つ逃亡奴隸の相互引渡しの契約が北部聯邦同盟條約に於て具體化されずした。然し「奴隸」及び「奴隸制度」の語は憲法から削除された、その「理由」はマディソンが言へる如く、「彼らは人間を財產權の目的と認めざることを欲しなかつた」からであつた、又同時に二十年の期間満了後議會が他國の奴隸貿易をも禁止すべき旨定められた。北部諸洲の聯合の組織せられた前又は直後に——一七七七年のヴァーモント洲に始まり一八〇四年のニュージャーゼー洲に終る——各洲の境界内に於て奴隸制度が廢止せらるるか或はその漸次的廢止を齎すべき方策が採用せらるるかしたことを忘れてはならぬ。然し(少くとも)後者の變革の主要なる作用は北部の奴隸を南部の市場に輸送することに過ぎなかつた。

吾等は奴隸の勢力が永い間絶えず該聯合にその影響を及ぼせる數個の階段を詳かに辿ることは出来ない。その利益のためになされたものではなかつたが、奴隸の勢力の伸張に一の

新しい原野を興へたる一八〇三年のルイジアナの獲得、ミズーリ協約(一八二〇)、テキサスの併合(一八四五)、逃亡奴隷法(一八五〇)、カンザス・ネブラスカ法案(一八五四)、ドレッド・スコット事件(一八五七)、キューバ獲得計画(就中一八五四年に於ける)及び外國奴隷貿易復活の計劃(一八五九—一八六〇)等はその攻勢的經歷中の主なる階梯——成功したのほただその中の二三のみ——であつた。これらは深き確信に根ざせる反抗の決心を喚起した。より近時の廢止運動の先驅者はベンジャミン・ランドンデー(Benjamin Lundy, 1786-1839)であつた。彼に次ぐ者にウィリアム・オイド・ガリソン(William Lloyd Garrison, 1803-1879)エリジャー・ユー・ラウジメイ(Eljah P. Lovejoy, 1802-1837)——若し殉教者とも云ふべき者があつた。それら彼を實にそれであつた——ファイリップス(Wendell Phillips, 1811-1884)サムナー(Charles Sumner, 1811-1874)シモン・ブロン(Simon Bron, 1800年に生れ五九年に讒死)等があり、何れも各道程に従つて指導的使徒であり大義の振興者であつた。實際政治の局外に立てるアメリカの最高の智者たちは反奴隷制度派の側に屬してゐた。即ちチャニング(William E. Channing, 1870-1842)エマーソン(R. W. Emerson, 1803-1882) 詩人のブライアン(William C. Bryant, 1794-1878) オンゲフ(Henry W. Longfellow, 1807-1882) 等、就中ホウ・チャプマン(John G. Whitier, 1807-1892) マホウ・ウィットマン(Marcus Whitman, 1802-1847)等は、この問題に關して明確な見解を述べてゐる。南部諸洲及び北部に於けるその黨派は、この問題に關する自由なる意見の發表を阻止せんとして必死の努力をなし、

奴隷使用諸洲に於けるキリスト教會すらその勢力を奴隷制度支持のために用ひた。然しかくの如き凡ゆる努力にも拘らず輿論は着着として勢を得て來た。北部諸洲に於ける民衆の感情はかのストー夫人(Harriet Beecher Stowe, 1811-1896)の "Uncle Tom's Cabin, 1852" に依り著しく刺戟せられた。こは實にシニア(Nassau William, 1790-1864)が言へる如く、小説の體を裝へる逃亡奴隷法反對のパンフレットであつた。この問題の解決は武力的争ひに俟つの外なきことが漸次明瞭になつて來た。一八六〇年十一月に於けるアブラハム・リンカーンの大統領就任は南方諸洲の擧兵の合圖であつた。北方諸洲は初めはただ聯合維持のためにのみ武器を取つた、然し先見の明ある政治家たちは最初から一般人民も亦程なく、眞實の争點が奴隷制度の存續か全廢かに在ることを知つた。

この戦争が實際に終結したのはアッポマトックスの陥落(一八六五年四月九日)に依つてであるが、各洲に於ける奴隷制度は既に一八六二年に議會に依つて廢止されてゐた、同年の九月二十二日にリンカーンは最初の奴隷解放令を布告し、次で翌年の一月一日には、聯合に反對して武器を取つた諸洲に於ける總ての奴隷が解放せられた、かくて一八六五年十二月には合衆全國を通じて奴隷制度を廢止し、且つ永久にこれを禁すべき旨の憲法の改正が批准せられた。

キューバ島

一七八九年に發布されたイスパニアの奴隷法は何人も認むる如くその本質に於て非常に人道的であつた、この故に、トリニダードが英國領となつた後反奴隷制度派は同島に於ける

イスパニア法を英國法に替へんことの植民者たちの企て(一八二一年)に反抗し——且つ成功した。然し法律がかくの如く人道的なものであつたに拘らずその規定はイスパニアの植民地では常習的に且つ公然と違反せられ、就中キューバ等に於て奴隷制度の状態は非常に悪いものであつた。同島に於ける奴隷人口は、一七九二年には八四、〇〇〇、一八一七年には一七九、〇〇〇、一八二七年には二八六、〇〇〇、一八四三年には四三六、〇〇〇を算した、一八七〇年に、當時六十歳を過ぎてゐた奴隷又は、その後六十歳を過ぎるものは直ちに自由となり、又たその後生れた奴隷の子供たちも總て自由となる旨の法案がイスパニアの議會を通過した。然し後者は彼らが十八歳に成るまで、所有主の費用で養育せられ、その代りこの期間中一種の徒弟としてその年齢相當の仕事に従事しなければならなかつた。この法律は當時植民地大臣であつた Senior Money Prender-gast の名で議會に提出されたことに因んで Money 法として知られた。一八六七年の人口調査に依るに當時キューバ島の全人口は一、三七〇、二一一人で、その中七六四、七五〇が白人で、六〇五、四六一は黒人若くはその他の有色人であつた。而して後の方の數の中二二五、九三八が自由民で、三七九、五二三が奴隷であつた。一八七三年にはキューバ島の總人口は大ざつばに見て一、五〇〇、〇〇〇で、その中約五〇〇、〇〇〇即ち三分の一が奴隷であつた。當時同島の總督であつた Crowe 氏は、一八八五年に「該制度は急速に亡びつつある、一年位で若くは長くは長かかつて二年で、奴隷制度はその緩和された形に於てすら終熄するであらう」と揚言した。

ブラジル

一八二六年に、奴隷貿易の廢止に關して英國とブラジルの間に協約が締結されてゐた、然し英國巡洋艦が監視してゐたにも拘らず、この協約は常習的に違背せられた。一八三〇年にブラジルの皇帝は奴隷貿易を海賊と同一視する旨を布告した。英國はアバディーン法(Aberdeen Act, 1845)に依つてブラジルの領海内に於ける疑はしき船舶の捕獲を承認した。而も尚ほ地方長官の默認に依り年年五四、〇〇〇人のアフリカ人が依然として輸入せられた。一八五〇年には奴隷貿易は全然絶滅したと言はれてゐる。植民者も鐵山主もこれに反對して國家的災厄であるを絶叫した。奴隷貿易の終熄は奴隷の勞役を一層嚴酷なものたらしめ、前には家内勞動に従事してゐた者の多くを驅つて、耕地の業に就かしめた、然しブラジルの奴隷制度は北米合衆國のそれよりも、常に輕易なものであつた。一八七一年九月二十八日に、ブラジルの議會は國中總て奴隷制度を廢止すべきことを議定した。右法令に依つて直ちに自由にされた國有奴隷を除く外、現に奴隷であるものは尚ほ奴隷として止らなければならなかつたが、解放に對する便法が賦與せられた、又該法實施の日以後に婦人奴隷から生れた小兒は自由民たる旨定められた。然し彼らは二十一年間その母奴隷の所有主の下に服役すべき義務を負はされてゐた。罰金收入の中から年々一定額を保留して各洲が賠償に依つて奴隷の解放をなすことを援助する用に當つべき旨の條項が挿入せられた。この法令の實施の七年前に、常にその力を自由のために盡してゐた皇帝は、彼自身の私有奴隷を解放したが、一八七一年以後多く

のブラジル人は何れも皇帝の例に倣つた。かくて一八八八年に、議會は遂に奴隸制度の全廢を議決し、その結果約七〇〇、〇〇〇人の奴隸が解放せられた。

變裝奴隸貿易

奴隸貿易の廢止後、これに代ふるに幾分長い契約期間の下に、未開諸民族の勞働者輸入の制度を以てせんこの企てが、二三歐洲諸國の植民地に於て見られた、而してこのことは數個の例に於て一種の合法的奴隸貿易に墮するものなることが判つた。一八六七年頃吾等は南洋諸島、ニューカレドニア、フィジー島等の間で行はれたこの種の制度のこゝを聞くに至つた。それは實際自由契約に初まつたが、さもなくば海岸で或はカヌーに乗つてゐるこゝろを捕へられ、船に積まれたものであつたらしい。耕地に於ける出稼契約の性質に關しては満足に説明されないで、彼らは法律上の條件を超過せる期間雇傭された。この貿易の範圍は程なく更に擴大した。一八八四年にク井ーンスランドに於ける太平洋諸島民の貿易が「有望なる」試に依つて特に注意を惹き、ニューギニア、ルイジアード・アルキペラゴ及びダントルカストー群島の土人を補充するための勞働者積載船に依つて講ぜられたる方法を調査するために官設委員會が任命せられたその間約五百人の證人が取調べられたる、この調査の結果、暴逆及び慘酷に於て昔のアフリカ奴隸貿易に劣ることなき一制度が曝露せられた。これらの不都合なる行動は、島人たちをして、彼らが海岸に誘き寄せ得たる白人達に片つ端しから復讐するのが一種の義務であるかの如く思惟せしむるに至つた。メラネシアの牧師、ジェー・シー・パットン (John

Coleridge Patteson, 1827-1871) は一八七一年の九月二十日にヌカップ島に於てこの報復の犠牲となつた。

ロシアの隸農制度

既に述べたる如く、變則的な近代植民地奴隸制度の名残が凡ての文明國及びその屬領地から一掃されつつある。かくて尚ほ殘されたる問題は、西歐諸國の外域に最近まで殘存せる、若しくは現に尚ほ在しつある原始的奴隸制度である。

西歐諸國民と同一の歴史的過去を有せず、事實、寧ろ東方諸國民と同種であること云ふ方がより正確であることこのロシアでは、奴隸制度は消滅したが、隸農制度は今日に至るまで尚ほ盛に行はれてゐた。吾人の研究に入り得る最も古き時代に於て、この國の田舎の人口は(一)奴隸、(二)自由農業勞働者、及び(三)小農業者若しくは百姓でコンミュニンの仲間であつた自作農民 (Peasant proper) から成つてゐた。

ロシアに於ても奴隸の源は、さの各國に於ても同様、戰爭に於ける俘虜、貧困自由民の身賣、支拂能力なきに至れる債務者の賣却及び或種の犯罪に對する法律上の所刑等であつた。第十八世紀に吾人は、前記三階級の區別がなくなり、何れも皆一様に、地主の若くは國家の財産である農奴と成り終るを見る彼らは移住を禁じられてゐたが、 adscripti glebae ですらなかつた、一七二一年の一勅令は「所有者たちはその百姓及び召使を、嘗に家族全體としてのみならず恰も家畜の如く、個個別別に賣却する」と言つてゐる。この實行は初めは便宜上、その賣買に際し税金を取立ててゐた官廳に依つて認許せられてゐたが遂には二三の勅令に依つて正式に認可せらるるに至つた。ペートル大帝は凡ての村落の住民に一種の人头税を課し、その所有主をして彼らの農奴に課せられたる該税に對する責を負はしめた、而して軍隊に入ることを慾しなかつた「自由漂流者」は或るコンミュニンの仲間として、或は或る地主の農奴として定住することを命ぜられた、隸農制度はカタリナ二世の治世に至つて最も發達せる域に達した。農奴は或は土地と共に、或は土地とは別に、或は一家族として、或は個個別別に、賣買せられ、贈與せられた、ただ公賣のみは「歐露に於ては好ましからぬこと」として禁止せられてゐた。地主は裁判を俟たずして、その不從順なる農奴をシベリアに移し、或は終身鑛山に入らしむることを得た、又その主人に不服を訴へた者は苦を以て罰せられ、或は鑛山の刑に處せられた。反動の最初の徴候がポール帝の治世(一七九六—一八〇〇)に現れた、彼は農奴が毎週三日以上その主人のために働くことを強制せらるることを禁する旨の勅令を發した。第十九世紀の初期からは、更に一層進んだ改善に關する二三の微力なる計劃もあり、解放に關する出來ぞこなひの計劃すらあつた。然しアレキサンダー二世の即位(一八五五)に至るまで何ら決定的な方策は講じられなかつた。同帝はクリミア戰爭後、國家の大官たちから成る秘密委員會を創設し、農民の事情に關する委員長を任命して、農奴解放の問題を調査せしめた。かのコンスタンティン大公はこの委員會の有力な一員であつた。該委員會の行動を促進するために次の出來事が利用せられた。リチュアニア洲に於ては主人と農奴との關係はニコラス帝の治世中所謂財產目錄に依つて取締られたが、貴族たちはこ

れに満足せず、今やそれらが修正せられんことを要求した。政府はその出願を隸農制度の廢止に對する希望を含蓄するものと解し、漸次的解放に對する明確なる提案を準備するの權能を委員會に委ねる旨の詔勅を發した。程なく一通の廻狀をロシア本國中の地方長官及び主だつたる貴族に送り、リチュアニアの貴族のこの希望を報じ、且つ「若し各地方の貴族が同一の希望を表示するならば、之を遵守すべき根本的原则を公達した。輿論はこの改善計劃に大いに賛成し、これに反對せる主人たちすら、若しその實行が心然のものとなるならば、官僚政府に委するよりも貴族たちに委する方が彼らの利益のためより安全なるべしとすに至つた。その結果一八五八年には隸農制度の存せる殆ど各洲に於てそれぞれ委員會が新設せられた。これら各委員會に依つて準備されたる計劃案から、一般的計劃を作り出す必要生じ、政府はこの目的のために特別の勅任委員を任命するに至つた。法案が作られ、貴族たちからの多少の反對(それは壓服された)があつたに拘らずそれは法律となり、かくて隸農制度は廢止せられた(一八六二年三月三日) 解放に際して地主に屬せる農奴の總數は二一、六二五、六〇九で、その中二〇、一五八、二二二は文字通りの農奴であり、一、四六七、三七八は家内奴婢であつた。この數は田舎の人口の約半分を占めてゐた國有農奴を含んでゐない。彼等の境遇は、一般に、私領に於ける農奴のそれよりもよかつた、それは實際ウァレリス (R. D. M. Wallace) の言へる如く、「農奴と自由民との中間的境遇」を見るこゝが出来た。彼らの中には、カタリナ二世に依つて俗用に供せられ且つ國家

に満足せず、今やそれらが修正せられんことを要求した。政府はその出願を隸農制度の廢止に對する希望を含蓄するものと解し、漸次的解放に對する明確なる提案を準備するの權能を委員會に委ねる旨の詔勅を發した。程なく一通の廻狀をロシア本國中の地方長官及び主だつたる貴族に送り、リチュアニアの貴族のこの希望を報じ、且つ「若し各地方の貴族が同一の希望を表示するならば、之を遵守すべき根本的原则を公達した。輿論はこの改善計劃に大いに賛成し、これに反對せる主人たちすら、若しその實行が心然のものとなるならば、官僚政府に委するよりも貴族たちに委する方が彼らの利益のためより安全なるべしとすに至つた。その結果一八五八年には隸農制度の存せる殆ど各洲に於てそれぞれ委員會が新設せられた。これら各委員會に依つて準備されたる計劃案から、一般的計劃を作り出す必要生じ、政府はこの目的のために特別の勅任委員を任命するに至つた。法案が作られ、貴族たちからの多少の反對(それは壓服された)があつたに拘らずそれは法律となり、かくて隸農制度は廢止せられた(一八六二年三月三日) 解放に際して地主に屬せる農奴の總數は二一、六二五、六〇九で、その中二〇、一五八、二二二は文字通りの農奴であり、一、四六七、三七八は家内奴婢であつた。この數は田舎の人口の約半分を占めてゐた國有農奴を含んでゐない。彼等の境遇は、一般に、私領に於ける農奴のそれよりもよかつた、それは實際ウァレリス (R. D. M. Wallace) の言へる如く、「農奴と自由民との中間的境遇」を見るこゝが出来た。彼らの中には、カタリナ二世に依つて俗用に供せられ且つ國家

の領地に編入せられたる、元教會に屬せる土地の農奴がゐた。尙ほ又皇族の使用に當てられたる采領地に於ける農奴もあり、これらの數は約三百五十萬に達した。かくて一八六一年の法律に依り四千萬以上の農奴が解放せられた。

マホメット教國の奴隸制度

東方マホメット教國の奴隸制度は普通野外の奴隸制度にはあらずして家内の奴隸制度である。奴隸は家族の一員にして、親切な愛情を以て取扱はれた。コーランは奴隸階級に向つて注意深き親切なる精神を表示し、且つ解放を奨励してゐる。その主人は女奴隸との間に出來た子供は生れながらにして自由でありその母も亦普通自由人としての妻に登用せらる。奴隸の賣買は屢政府 (Ottoman Port) に依つて全領域に互り不法ならせられ、それを禁止する旨の法律が一八八九年に發布せられた。然し、該法律の緩漫なるを、餘りに屢役人たちが共謀せるため、それが絶滅せるものは稱され得ない。埃及ではそれは實際に終熄した。

アフリカ

植民地奴隸貿易時代に在りてはそのアフリカの中心地はカラバル、ボニー兩河の河口附近であつた。クラークソンの言へる如く、年年この部分の海岸から、他のアフリカの凡ての部分から同じ程の多くの奴隸が來た。そこから埃及、トルコ、アラビア及びベルシヤへ供給せられた主なる中心地は次の三箇所であつた。

(一) 中央スーダンは一つの廣大なる狩獵場であつたらしい。俘虜たちはそこからボルニユの Kuka の奴隸市場に齎らされ、後こゝで

商人に買取られ、年年約一〇、〇〇〇人もが、サハラ砂漠を経てフェザンのミウルジュークに至り、此地から北部及び東部地中海沿岸に賣捌かれた。途上に於ける彼らの慘苦は實に驚くべきものであつた、多くの奴隸は倒れて遺棄された *troops* の報するところによれば、

隊商の通過した一道を知らなかつた者は、路の兩側に累累たる白骨に從ふの外なかつた。黒奴は又西部スーダン及びティンバクツからモロッコに齎らされた。モロッコに於ける中心市場は *Sidi Hamed ibn Musa* の、そこはマゴドールの南方七日程のところに在り、大南市が開かれた。奴隸はそこから幾組もにして各都市、就中 *Marrakech, Fez, Mequinez* 等に送られた。かくて年年約四〇〇〇〇人が輸入せられ、サルタンはこれに一定の輸入税 (*ad valorem*) を課したが、その年收は約四八〇〇磅に達した。今や西部スーダンの大部分は佛國に依つて統治せらるるに至りその主要供給源からモロッコを取り去つてしまつた。然し奴隸制度は尙ほ同帝國に於て盛に行はれてゐる。

(二) ナイル河の上流の多くの大湖に達する邊りは奴隸貿易に依つて荒された今一つの地方であつた、奴隸はそこから埃及に密輸入せられ、或は紅海を経てトルコに送られた。埃及總督 *イスマイル* は一八六九年に *サミュエル・ペーカー* を大軍の指揮官に任じ、彼はこの大軍を率ゐて「奴隸貿易を直接その遠き巢窟に襲撃した」。彼に依つて初められたこの事業は

シー・ジー・ゴルドン 大佐に依つて一八七四年から一八七九年まで續けられたが、然し、マデュー及びカリファの下に奴隸貿易は復活した。一八九八年に英埃軍が再び東部スーダンを

を征服して以來、奴隸狩並びに可及的に奴隸制度それ自身を絶滅するための有効なる方策が講ぜられた。フランスに依る中部スーダンの諸國の征服——一九一〇年にワダイの歸服に依つて終了した——はサハラを経てなされた隊商の奴隸貿易を全然終熄せしめた。

(三) 永い間アフリカ東海岸のポルトガル領から奴隸貿易が行はれてゐた。供給の流れは主として南部ニアサ地方から、イポー、モーザンビク、オーゴシシュ、及びキリマニヤに通ずる三乃至四の道筋を経て來てゐた。マダガスカル島及びコモ諸島はその奴隸の大部分をモーザンビク海岸から得た。一八六二年頃、毎年約一九、〇〇〇の奴隸がニアサ地方からザンジバルに向つて通過したと信ぜられてゐた。一八七三年頃まで、このザンジバルから、アラビア及びベルシヤの市場へ多くの奴隸が供給されてゐた。一八七三年に *サー・バートル・フリーア (Sir Bartle Frere)* の使節が奴隸貿易禁止の交渉をザンジバルのサルタンに齎した。會ては年年一〇、〇〇〇もの奴隸が *Nzara* の南端を通過したが、一八七六年にはこの道を経て送られた奴隸の數は三八人を出でなかつたと言はれてゐる。モーザンビクの英國總督 *オーネール* 將軍が一八八〇年に書いたものの中には、その頃 *ロヴマ*、*ザンベジ* 兩河間の海岸から年年輸出せられた奴隸の數を三、〇〇〇としてゐる。ザンジバルに於ける英領保護國、東部アフリカの大陸及びナイル河の上流地方に於ける英及び獨領保護國の設定の結果、東部アフリカの奴隸貿易は遂に最後の致命的打撃を蒙つた。ザンジバルその他英、獨、葡領地域に於ては、奴隸制度それ自身が廢止せられ、マ

ダガスカルに於ては佛國に依る征服以前にすら既に已んでゐた。歐洲列強に依る海岸地域の完全なる支配はアラビア、ベルシヤ地方への奴隸の密輸入をして著しく困難且つ危険なる事業たらしめた。

スタンレーに依るコンゴ行路の發見、ベルギーのレオポルト二世に依るコンゴ自由國の建設、歐洲列強間に於けるアフリカの大部分の分割等に依り新しい時代が開かれた。コンゴ自由國の歴史はその建設者の博愛的な宣言に對して悲しむべき對照を示してはるるが、同大陸の他の諸地方に於ては、英、佛、獨等の保護國設定に次で、奴隸狩を終熄せしむるための熱心なる且つ効果ある努力が續けられた。アンゴラ及び中央アフリカ附近の地方のポルトガル領のヒンターランドに於けるが如く、ヨーロッパの權威が微弱な地方では、土蕃の酋長たちは依然として隣人の掠擄を續け、この地方からの多くの勞働者が *St. Thomas* に於けるココアの栽培に強制的に従事せしめられてゐた (一九一〇年頃まで)。一九〇九年アルバート一世のベルギー王位繼承と同時に、コンゴに於けるかくの如き状態を推進せしめざらんとする重大な努力が拂はれた。第二十二世紀の最初の十年の終り頃にはアフリカの奴隸狩は大部分に互つて、最早過去の事言はれ得るに至つた。

初めクラークソンが後には *バックストン* が、彼らが奴隸貿易及び奴隸制度そのものの廢止若くは阻碍のための凡ゆる他の方法を奨励してゐた間に、唯一の徹底的に効果ある方法はアフリカそれ自身に於ける正當なる商業の開發に在り云ふことを明瞭に觀取した。バックストンが一八四〇年にその著「奴隸貿易」

その對策——The Slave Trade and its Remedy』を公にした時、これが彼の熟慮の結果である所謂對策であつた。一八四一年の不幸なるナイゲリア遠征は同一の結果にまで導かれた、而してここにこの大問題の根本的解決法が存する云ふことが、骸題目に興味を有せる凡ての人人に依り益深く感ぜらるるに至つた。シエラ・レオネーが中心地となりそこから産業及び文明がアフリカ大陸の諸民族の間に散布されるべし——一時考へられたことがあつた。又一八二二年にはリベリア植民地(そは一八四七年に獨立共和國となつた)が同一目的の下にアメリカ人に依つて建設せられてゐた、然し何れの場合にもこれらの期待は適當に満足せしめられなかつた。(完)——經世抄譯

千里山俳壇 朝 冷 選

豫三 鈴木たけを

梅の實を取る二三日の曇り哉
訪人の稀れなる梅雨の山家哉
破れ傘倒れし梅雨の厨かな

校友 土井春綾

花御堂雨は高きにつぶるかな
家の前雨に穂麥の出そろへる
雨しみて牡丹大きく見えにけり
家の中に夕日さし込み牡丹哉
鳩啼いて道の曇りの薄暑哉
薄暑めく山邊茅花のそよぎけり
木の零冷たき山路若葉かな
時鳥山家はいまし起き出づる
時鳥夜の雨あがる田水かな
時鳥岡に葛引く女哉

わが宿の花橘にほろゝぎすもつれつゝ、葛のびてゐる五月雨細い月が出てゐる濱の夏祭螢飛ぶ田に水満ちてゐるたりけり螢飛ぶ燈籠に草の長けし哉花茨のほめきが白う明易き明易き端山に雲の流れけり月の暈深し河鹿を宿に聞く月の出に燈さぬ家の蚊遣哉葛引けば袖につきけり青蛙青梅の日にきら／＼す山邊哉

新宅使丁

朝 冷

追 加
欄干の手拭に來し螢かな
うすもり浮きし切子のさくらんぼ
囁くゝる糊の浴衣が鳴りにけり

當季雜吟募集

送稿先

兵庫縣(蘆屋局區内)深江
有 田 朝 冷 宛

封皮には必ず「千里山俳句」を朱記の事

正 誤

本誌前號第三頁井上準之助氏講演題目脇見出に(千里山學舎に於ける講演摘録)とあるのは(千里山學舎に於ける講演速記録)の誤りにつき、又同號第十三頁第三段第十一行目「彼はマガダレン、ホールの給費生として」とあるのは「彼はモードレン、ホールの給費生として」の誤りにつき何れも訂正す。尚ほ後者につきては次號に詳報するところある筈。

初めてチヨークを執りて(續)

今 山 生

(一)

人類の歴史は争鬪の歴史である、人類が存在する限り地球上から戦争は免れない、戦争は已むを得ざる罪惡である、既に已むを得ぬものゝすれば之に備へなければならぬ、そこで軍備だ、軍備が充實し過ぎるに一寸之を用ひたくなる。子供だつて玩具の刀を與へるを人を切る眞似をするものだ、軍備がなければ強國に壓迫される、軍備が出来るに鳥渡用ひ度くなる、そして必要な又無用な戦争を繰返す、軍備の争鬪性が互に因みなり果さなつて人間の歴史を争鬪史にしてつた。戦争は已むを得ぬ罪惡である、殺す奴も餘り好い氣持はせぬだらうし又殺される奴は尙迷惑だ。それならよせば好いのにそうはゆかない、人間の感情云ふ奴は存外鈍感なもので、目の前で人の首をチョン切るに鳥渡慘酷な感じがするが、遠くから鐵砲で打つた奴は案外平氣なのである。いや却つて面白い、敵を殺したさいふで喜ぶ、恰度我が自分で締め殺した鶏は喰ふ氣がせぬが人が殺してくれた牛肉は喜んで喰ふ様なものだ、即ち戦争の止められない理由の一つである。

(二)

それから一方には人口過剰でウンウン苦んで居る國があるのに他方には豊饒な大國を持って餘し乍らホワイト・オーストラリアだなき人

の憂を外に見て威張つて居る國がある、即ち戦争の起る第二の原因である。民族自決など云ふて敗戦した國の民族は獨立されたが勝つた國の方の殖民地などは平氣なものだ、小國の不平が常に國際聯盟をぐらつかせる、即ち戦争が起り得る原因の三である。國境を死守して他民族を排斥する人種的偏見がその四である。國境を徹廢して人類の自由居住權世界を認るなら軍備は縮少しか全部廢棄しても好い譯だ、悲しいかな人種的偏見は到る處に存在する。日本の人種平等案はベルサイユ會議で一蹴された、アングロ・サクソン・シユペリオリティーが元來いけない、英米が戦争に従事した数は軍國主義に非難される日本の數より遙かに多い、アングロ・サクソン・シユペリオリティーは戦争を挑發する原因の四である由來アングロ・サクソンの代表者である英國が世界に覇を稱へて居るのは戦勝のお蔭である、經濟學者は個人に自存權があるといふ。國際法學者は國家に自衛權があるといふ、自衛權があつてそこに國境がある、國境突破は力を以てせねばならない、力は強制である。即ち戦争の起る原因の第五である、經濟的葛藤がその六である、それに付いては可怪な話がある。會つてN會社のM君が綿布の見本を以てザンヂイバルに行こうと旅行券に英國領事の署名を乞ふたら、曰く日本が英國の勢力範圍内の商業權を犯す事は日本國家にまつて不利であるから旅行は思止つた方がよいといふて署名をしてくれなかつた。なかなか商賣人根性が深い、更に私が孟買からナムールに乗つてアデンに着いた時戦争中の事で恰度須磨が居たので訪問して御馳走になり甲板で多くの士官達と藤椅子を並べて四方山の話をし

て居る處に英國の士官がやつて来た、恰度英軍が英領アラブ軍を率きつれて土耳其軍と對戦して居る時である。艦から砲煙を望む事が出来る、或る日本の士官が英國の士官を冷かして君達の戦争はオワー・オブ・キャメルズだなあといふたら——これには戦争で死ぬのは駱駝アラブで英國人は少しも死なないといふ皮肉である——英國の士官は直ちにウワー・イズ・ビヂネス、といふて簡單にやつてのけた。私はスツカリ感心したものである。アングロ・サクソンは轉んでも唯は起きない日本など見たいに縁もゆかりもないチエック人を助けるなぞ云ふてシベリヤに出兵などはしない。

(三)

戦争を初めた以上は是非勝たねばならない。そこに人道も車道もない、マイ・カンツリーライト・オーア・ロングである、戦敗した國民程悲惨なものはない、それに就いて私の見聞した處を書けば非常に長くなるから他日に譲らうと思ふ。戦死する人は氣の毒である、然し戦争が避く能はざる事であり、且つ祖國——自分の懐しい父母や可愛い子供等の住んで居る——を救ふ事が出来るならよし戦死してもそこに安心立命を見出し得るであらうと思ふ、是れが私の戦争觀の一端である。弱いものなら退けても通す強い奴なら向う脛と幡隨院の親分も曰ふた。

(四)

先日片上天絃先生のお話を聞く爲め諸先生のお尻にくつついていつた時も愉快であつた。併し片上先生も得意な文學上の質問が出ずに

盛んに經濟上の質問を浴せかけられて御迷惑した事と思ふ。私は又私で政治に關するお話を承り度いと思ふて今の勞農政府の永續性如何を問ふたら先生は充分永續性がある旨お答へなられた。それから目下勞農政府治下にある聯邦が國語に文學に遠心的傾向があること申された。そこで私は國語とか文學とか一國の統治上に重要な要素が遠心的傾向があるのならそこに勞農政府の土崩瓦壞の危機を含みませぬか聞いた處、先生は國民が極端に壓迫せられて居るから反革命を起す氣力はないと仰せられた。然し私の見る處は少し異なる、生意氣だと思はれても仕方がないが、片上先生は私の申す事に再び御教示を賜る様な寛宏なお方であると思ふ。そこで私が盲目蛇を初めるのである、勞農政府治下の國民が氣力のないまで極端に壓迫されて居るのは事實である、それが爲め人民が全然反撥力を失ふて居るに斷ずるのは早計ではありませんまいか。

帝政時代にあつても露國民は極端に壓迫された民族である、それは今よりモット酷かつたかも知れない。然るにその人民が今日の様な革命に成功した、何の爲めに？それは壓迫の手が弛んだ爲めである、結局露國が敗戦したからである、押へて居た手を除けたから鞠が弾ね返つたのである。私は戦争の原因は常住であると思ふ、他日露國が他國と戦争をせないう誰が斷言し得るだらうかそして露國が負けない誰が斷定し得るだらうか、勞農政府が敗戦すれば今迄逼迫して居た反革命分子が必ず擡頭すると思ふ、先生のお話によれば已に已に分裂した小共和國が遠心的傾向を帯びて居る、殊に國語とか文學に於てその傾向

が顯著であると思はれた、國家の統一上一番必要なのは國語と文學であると思ふ。その要素が已に已に遠心的傾向を帯びて來て居ると思ふればそれは勞農政府の結末が弛緩して居る事を意味し従つてその永續性に乏しいといふ結論に達しは致しますまいか、此の點に關しては他日再び先生の御教示を仰ぎ度いと思ふて居る。

(五)

陽春四月春光天地に充ち麥芽已に尺、人間の悲喜を前にして四季は代る代る序する。處が人間の不景氣さは如何だ、今日或る銀行の支店長に聞いた話であるが京都大學の法科の卒業生は二分しか就職口が見當らないといふ、嘘か眞實か知らないがヒドイ話である、個人商店も工業會社も貿易會社も金融業者も保險會社も世界大戰のブームに乗つて好い氣になつて居たものだが——今年の卒業生は實際氣の毒だ卒業して迄も親父の厄介になるのも餘り感心せぬといふれば直ぐ生活苦に當面する、若い身空で財界の不況をモドカシク思ふ、併しそれもそう悲觀する事はない、人生はエデンでない、盤根錯節に遇はずんば以て利鈍を試し難しである。孟子の所謂天の將に斯の人に重任を下さむとするや云云の話は先日卒業式で學長からお聞きになつた事である。氣を落してはいけけない、今年いけねば來年を待つのだ來年いけねば來年を待つのだ、赤猪子は八十年も待つた。

(六)

波に起伏のある様に人生でも榮枯がある、落膽してはいけけない、創業の難きは天に昇るがしと言ふ事があるが今年の卒業生はそれを當

面に體得する廻り合せになつて居る、だが張り切れる様な青春の血を抱いて仕事の無いのは實に苦しい事と思ふ、そこに誘惑がある、それに打勝たねば社會征服は夢より果敢ない閑居して不善を爲すのは小人だけではない。そこでその難境に善處すると思ふ事にも人生の意義がある、積極的であれ消極的であれ要するに人生の戦は艱難なものだ、人間が木の股から生れるものなら獨り食ふなら世話はない、耕して食井りて飲めばよい、何も憂る事はない、花開いて春を知り葉落つれば秋である、處がそうはゆかない、父母があり兄弟があり社會がある、そこで自己の欲する努力以外の努力を強要される。併しその努力を強要されない。前に自ら進んで爲すが君子の道である。卒業生が今就職難に苦んで居てもブラブラして居てはいけけない、そこに何等かの意義を見出さねばならぬ、無爲にして居らんより博奕の方が好い孔子が言ふたが博奕は一寸な——。(未完)

京洛の春

清水の御堂に倚れば山櫻ハラハラ散りて春風に舞ふ
京はよし御室の櫻風狭の流れに浮ぶ山櫻花君が住むさいへばなつかし花使いき、てはるく、京までも來つ
思遙か君さいゆきし東京の清水谷の夜よ八重櫻
白き妻と見し山王下の山櫻ホロ／＼散れり風もなき夕
清水は御堂に立ちて花櫻見下す度に春の風吹く

千里山短歌 編輯局選

△千里山短歌會水無月例會詠草

× 塚本峰壽
この原に櫻散りつつのどげさや香里の山はうすがすみたり

× 原田三夫
朝霧にぞこもわかぬ滋賀の湖釣舟ならし聲のみきこゆ

× 藤原勳
夏虫の燈火近く飛び来りわが文机に落ちて果てけり

× 鈴木たけを
旅にして人戀すればいれも兼ね夜半のふしごにくろうを聞く(高野山にて)

× 藤枝まさむ
緑濃き山の端雨にかすみつつ桐の花咲くほの見ゆるかな

× 萩野勉
雨の降る夜はわたつみの蟹のむれそのよき群れよ行きたしと思ふ

× 東清一
夕ざればあかしかかけて出のさぶ頃とはなりぬ哀しみの湧く

× 西堀まさむ
今宵しも遊びつかれて眠りけり逝きにし母の命日なるに

× 堤サヤスキー
のどかなる春の陽の中に息づけるサボテン草の鋭き針よ

× 辰己孝治
薬もて早鐘のごとわがむねをたたきてゆきし乙女子もあり

× 森畦孝夫
親和阪登りつくせば目なかひに緒土はるばるご平

らなるかな

× 篠原敏夫
そよ風にむらがり咲ける黄なる花明るくゆらぐ初夏となりたり

× 上木樂羊
萌えそめし青芝草は風のたが松が根がたにさんさんこ鳴る

× 眞木新
寂しさに瞳をばさざせば冬枯れの神戸山脈浮び来るも

× 村上教授
人の眼の秤に載すおのれてふあたらみ珠をなうち碎きそ

× 新町講師
英吉利はアダム・スミスの生れたるうまじ國や君ゆくやよし(某經濟學者の英國に之くを送る)

△初夏 鈴木たけを
陽のひかりそがひに受けて箕面路の青葉の奥に瀧の音聞く

△ これやこのステディオ成りし日男男しくも覇をとなふるはあはれ誰が子ぞ(運動場を見て)

△ 鳴門行 三浦うたすけ
めざめつつケビンの窓ゆ見やるなる淡路の島に陽は出づるかも

△ 晝かけて鳴門の潮は流れたり海峽を圍む陸はさみざり

△ 赤松はさしいてで陽に濃し緑葉ごしに見ゆる春の海かも

△ 島山を二つに分ちおほらかに鳴門の潮は流れ居るなり

△ 甲板に吾が立ちおればスクルウに碎くる波の眞白なるかも

△ 春の夜の星は亂れて大浪のうねりのはてにつづき居るなり

△ あひ見てし其まなざしのうれしさにしじみか梅雨にぬれつあゆめり

△ 藤村まさる

△ (第九頁より續く)
見した、又其後小早川隆景杯も此舉があるを知つた調べれば日本武士には未だかかる行爲はいくらもあると思ふ。要するに楠公の至誠、人道の一手專賣、世界平和の權威ウ井ルソン大統領の云爲する至誠さは少しく質が違ふ様に思ふ。

△ 此比類なき至誠は營に部下を訓化した計りでなく、流風遺韻代代我將士の心を支配して居る。今日我帝國の操典に「攻撃精神は忠君愛國の至誠と献身殉國の大節とより發す」と記せられてあるのは其基く所、實に楠公の示範にありと思ふ。嗚呼楠公は依然として金剛山上に生きて居る。生きて今尙勤王護國の軍を統率して居る。

△ 附言本研究に對し木梨楠公顯彰會理事、長谷川富田林中學校教諭及同校教練教官日根大尉等の諸君が多力の助力を與へられた事を深謝致します。

△ (第十六頁より續く)
ながら幾つかの嶮しい峠を越えて山頂に辿り着いたのが午前十一時、標高正に五五二米である。ここから中山又は満願寺方面へ出る筈であつた。豫定を變更して武田尾へ下りた此地では温泉に浸りながら河鹿の鳴くのを聞い

た。浴後山岳部の前途を祝して杯を乾し、汽車にて寶塚に歸着一日行樂の草鞋を脱いだ。

山岳部第二回登山

六月二十日午前七時阪急線御影停留所集合、寒天山道——西六甲——東六甲——石寶殿——熊笹峠——中畑——奥池——雷岳——苦樂園、夙川にて解散云ふ豫定の下に第二回登山會が催ふされた。會するもの河村講師を始め七名、十一時に雲々茶屋にて中食、頂上三角點に着いたのが十二時三十分であつた。此行程中最も難關と目せられた石寶殿、苦樂園の間も一行元氣旺盛に踏破、午後四時三十分

に全行程六里餘を歩き盡して愉快に散會した來學期からも此調子で月に二回位宛登山會を催す豫定である。

川口蹴球部員の計

千里山ラ式蹴球部員、川口司郎君(豫一)は去月中旬同部が中國、四國地方に遠征せるに參加奮戦中不幸病を得て松山赤十字病院に入院し、加療に努めたが効なく同月十九日遂に逝去した。ここに謹んで弔意を表する。

關西甲種商業學校彙

教諭室崎繁太郎氏逝去 本校開校以來就職せられた同教諭は宿痾の腎臟病で六月十六日逝去せられた。越へて十八日の告別式には本校教諭一同及び生徒代表參列深く哀悼の意を表した。

教諭植松房藏氏退職 簿記其の他を擔當せられた同教諭は今回都合により退職せられた。

教諭植松房藏氏退職 簿記其の他を擔當せられた同教諭は今回都合により退職せられた。

教諭植松房藏氏退職 簿記其の他を擔當せられた同教諭は今回都合により退職せられた。

教諭植松房藏氏退職 簿記其の他を擔當せられた同教諭は今回都合により退職せられた。

教諭植松房藏氏退職 簿記其の他を擔當せられた同教諭は今回都合により退職せられた。

夏期學外講演に應諾せら
れたる本學教員及び演題

夏期休暇を利用して、地方の各種團體の招聘に應じ、本學教授講師諸氏を煩して學外講演會を開催することに就ては學内報欄に報道した通りであるが、既にこれを應諾せられたる諸氏の題目並に氏名(イロハ順)は左の通りである。

岩崎卯一教授——社會政策の基礎概念、一新
舊二型の社會學

沖中恒幸教授——經濟思想史論——消費經濟論
——現代社會に於ける金融機關の意義。

横卷茂雄大佐(教練教官)——歐米列國に於ける
軍備の現況及び將來の趨勢——歐洲に於ける
國民軍事訓練の實況——戰史上より觀察せ
る國民性軍の編制——歐洲大戰史概論。

武内省三教授——生の哲學——學の哲學——カン
トに於ける「自由」の概念——哲學の概念につ
いて——哲學史の自己發展と世界史。

野村次夫講師——歐洲戰後に於ける各國關稅
政策の傾向——支那關稅會議と本邦對支貿易
の將來——最近に於ける我關稅問題——國際平
和と關稅問題——本邦に於ける商工業上の利
益代表團體。

藤澤幸次郎講師——漢詩作法——孔子の眞精神
——魏晉時代の民謠に就て——春秋時代に於ける
古詩の活用——王羲之十七帳考。

小泉幸治教授——大化改新の土地問題とその
解決——佛教の政治上に及ぼせる影響——戰國
時代の女子道——英國殖民政策と米國の獨立
——西洋文明の三大要素。

櫻井匡教授——品性の涵養と環境——道德思想

の發達——道德と宗教——現代と宗教——奇蹟に
就て。

佐々木教授——權利否定論——法律と社會主義
——法律と道德の合一——個人と社會の同化——
國際私法の社會化。

木下孫一講師——陪審制度に就て——所謂普通
選舉に就て——貴族院改革論——樞密院廢止論
宮島綱男教授——經濟と道德——人口問題——農
業問題——經濟學の今昔——大學教育論。

新町徳之講師——大正文學の趨勢——人文地理
學上から見た日英米の三國——日米交渉史論
森下政一講師——社會政策と財政——財政上よ
り觀たる近代都市——財政學の一斑。

松本照治學長——演題未定。
村上喜貞教授——演題未定。

田邊信太郎講師——演題未定。

The Kansai University Bulletin
published monthly by
The Kansai University Press

No. 41 July, 1926

LEADING FEATURES OF CONTENTS

- A Study of mount Kongo as a Military Fortress Collonel S. Yokomaki
- J. K. Ingram's Modern Shavery
..... Mr. K. Tatsumi
- University news
- Alumni news
- Students' activities
- Miscellance

八月號休刊

例年の通り本誌八月號は休刊し
第四十二號は來月九月十五日
發行致す

大正十五年七月

關西大學學報局

學生諸君に告ぐ

千里山學報投稿に就て

▼學友會各部の記事、各種研究會、親睦會、縣人會その他學生諸會合の記事、論文、文藝作品等本誌に掲載希望の原稿は、總て千里山學舍圖書閱覽室内及び福島學舍學生入口左側に設置してある千里山學報投稿函に投入して下さい。但し寫眞その他投入不能の材料は事務所又は學報局へ直接提出して下さい。▼每號締切は前月二十五日限りとし、その以後の分は次號に廻します。

大正十五年七月 關西大學學報局

不許複製

大正十五年七月十三日印刷
大正十五年七月十五日發行

編輯兼發行人 辰巳經世
大阪府此花區上福島北二丁目
關西大學學報局
印刷者 飯田彌之助
大阪府西區土佐堀通四丁目五番地
印刷所 鐵三有社
大阪府此花區上福島北二丁目
發行所 關西大學學報局

福島學舍 關西大學
大阪府此花區上福島
電話土佐堀(一〇四九)(五五七〇)
千里山學舍 關西大學
大阪府外千里山
電話吹田一三三

關西大學教授 宮島綱男先生著

經濟學原理

(卷上)

菊 紙 菊 菊
 數 數 數 數
 約 約 約 約
 判 判 判 判
 三 三 三 三
 百 百 百 百
 七 七 七 七
 十 十 十 十
 五 五 五 五
 拾 拾 拾 拾
 八 八 八 八
 錢 錢 錢 錢

總 金 金 金
 ク 參 參 參
 ロ 圓 圓 圓
 ー 五 五 五
 ス 拾 拾 拾
 製 八 八 八
 幾 錢 錢 錢

下卷 近々發行

著者が其透徹せる推理力と豊富なる語學力とを以て研讀潜思幾年の後遂に成つたもの即ち本書である。堂堂一般經濟の原理を論じて照合するところ古今東西の史實、學說に亘り而かも之が嚴精なる批判檢討を通して導き出だせる結論を更に一步現代の經濟事實に近附けたる點に於いて學界稀に見るの好著である。行文平明にして正確、敘述亦繁簡其宜しきを得て經濟學を正しく理解し現時行はるる諸種の學說に對して相當の批判力を得る爲めには先づ第一に讀まるべき書物である。加ふるに各節末には詳細なる參考書目を掲げて讀者將來の研究に便し書中引用するところの學說に關係深き學者の肖像を十數葉の鮮麗なコロタイプ版として挿み裏面に其傳記を附して、學說と時代の交渉並びに學說夫れ自身の印象を一層深からしめんと努めてゐる蓋し經濟學史としても一の纏つた好參考書である。尙ほ本版には書中引用せる學者のインデックスを付し且つ第一、第二に洩れたる又は其後公刊せられたる參考書の目錄を増補した。敢へて大方に獎む。

地番二日丁一町錦區田市京東

堂 文 瞭 所行發

番一〇四五手穴話電・番三六一〇五京東番攝

目丁四通堀波阿區西市阪大

館文寶阪大 式株 阪 大
社會 所寶 發

{番〇三四三} 町新話電・番三四版穴番攝
{番一三四三}

千里山學報維持費に就て

千里山學報ヲ一箇年以上繼續御送付申上ゲテキル向デ未ダ一度モ維持費ノ御寄捐ニ接シナイ校友各位ヘ別便ヲ以テ更メテ御出捐方ヲ御願ヒ申上ゲル等デアリマスガ、コレニ對シテ何ノ御返事モナイ方ニハ宛所ニ現住セラレヌカ或ハ同誌ノ配布ヲ希望サレナイモノト認メ勝手ナガラ爾後發送ヲ中止致シタク、豫メ御諒承置キヲ願ヒマス。

大正十五年七月

關西大學學報局

募集學年

法律學科第一學年	終業年限
商業學科第一學年	各三ケ年
經濟學科第一學年	
文學科第一學年	

關西大學專門部補缺募集

志願者

出願期間 八月二十日ヨリ九月四日マデ

試驗期日 九月六日ヨリ九月十日マデ

詳細 返信料封入下記へ照會ノコト

舍學島福學大西關島福市阪大

番〇七五五・七四〇一堀佐士話電

岩崎卯一著

四六判・總布製
本文六四四頁

(肖像コロタイプ刷數葉)
(書翰寫真凸版刷挿入)

社會學の人と文獻

社會學は、苟も現代文化諸科學の原野に足を踏み入るゝ者の、必ず一度は通過せねばならぬ一大未開地である。それは處女林の如き魅力を以て我々を誘ふと同時に、分け入るに從ひ彌々底知れぬ深みと迷ひに導くやうな不安を懷かせる。かうした茫漠たる學問の世界に旅立ち、道遠き眞理への巡禮をつゞけつゝ、或は米國の碩學ギディングス門下に學び、或は英佛獨澳伊諸國の優れた社會學者の書齋を歴訪して、思索と生活に闘ふ勇士の風采や、又その家庭の人としての溫容に對し、一種共通な思慕の情熱を禁じ得なかつた著者が、その歡喜と崇敬の心を記念せんが爲めに書き綴られたものが即ち本書である。とりわけ著者は、思想學說の背後に脈動する學者の心情に深き共鳴を感じて、「學」よりも寧ろ「人」を第一の觀點とし、その流麗精緻なる筆に托して、さながら生けるが如く歐米諸學派の狀勢や學校及び自宅に於ける學者生活を描寫紹介せられて居るが、更に本書全卷に充溢する東西の學者無慮七百の人名並にその數多き文獻をば、一々卷末の索引欄に異常の周到さを以て總括整序せられた。されば本書は實に社會學研究者にとつて最も便利なる參考書であるばかりでなく、特殊の風韻と情趣に満ちた親しみある學術書として廣く學者の好侶伴たるであらう。

定價
金參圓貳拾錢
送料
書留貳拾七錢

内容

- 第一編 ギディングス先生の人と學について (米國社會學界におけるギディングスの地位と勢力)
 - 第二編 パリにルネ・ウォルムス先生を訪ふ (佛國社會學界における反デュルケーム學派)
 - 第三編 ロンドン大學にホップハウス先生を訪ふ (英國社會學界におけるホップハウスの地位と勢力)
 - 第四編 ウィーン大學で逢ふた社會學者達の印象 (獨逸社會學界の近視と遠望)
 - 第五編 パレット先生とコセンチーニ教授との片影 (伊太利社會學徒の群れとその文獻)
- 社會學者人名索引表 引用文獻索引表

三二二二 谷四話電
六九四五
八一—三七東京替振

院書江刀

下坂中段九京東
内グンデルビ山中

關西大學 第四回夏期 語學講習會 會員募集

◆科別 英語科、佛語科及ビ獨語科(但英語科ハ中等學校卒業以上ノ素養アル者ヲ收容シ他ハ初學者ヲ收容ス)

◆會期 大正十五年七月十二日ヨリ同月三十一日マデ

◆授業時間 午後六時ヨリ同八時マデ

◆會場 關西大學福島學舍(但市電淨正橋筋停留所下車北へ約二丁)

◆聽講者 男女ヲ問ハズ入會スルコトヲ得(女子多數ナルトキハ別ニ女子部ヲ設ク)

◆講師 關西大學專任教授並ニ講師

◆特權 英語科修了者ニハ關西大學專門部入學試験ノ語學試験ヲ免除ス

◆照會 詳細ハ直接又ハ書面ニテ本會ニ照會スヘシ(返信ヲ要スルモノハ返信料添付ノコト)

大 阪 市 福 島

關 西 大 學

電 話 土 佐 堀 一 〇 四 九 〇 五 五 七 〇